

令和8年4月22日

令和8年

第6回野洲市教育委員会定例会
報告事項

野洲市教育委員会

報告事項

- ① 野洲市家庭教育支援員の委嘱について
- ② 野洲市地域学校協働活動推進員の委嘱について
- ③ 令和7年度小・中学校の学校評価について
- ④ 令和8年度小・中学校の児童生徒数・学級数について
- ⑤ 令和7年度小・中学校の寄付採納について
- ⑥ 令和7年度幼稚園の寄付採納について
- ⑦ 令和8年度保育園・幼稚園・こども園の家等の入園・入所状況等及び野洲市三方よし人材バンク等の令和7年度実績について
- ⑧ 令和7年度第3回社会教育委員会議の概要報告について
- ⑨ 令和7年度第3回図書館協議会の概要報告について
- ⑩ 令和7年度ふれあい教育相談センター事業報告について
- ⑪ 令和7年度野洲市歴史民俗博物館事業報告について
- ⑫ 令和7年度文化財保護課事業報告について
- ⑬ 野洲市いじめ防止基本方針の改定について
- ⑭ 職員の任免等について

令和8年度 家庭教育支援員名簿

氏名	所属団体等	備考
田中 修	中主小学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
馬場 英清	中主小学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
萩原 玉子	篠原小学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
松並 典子	祇王小学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
吉田 雅子	三上小学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
萩田 春美	野洲小学校/野洲中学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
橘 円	北野小学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
岡本 有加	中主中学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		
上品 まゆみ	野洲北中学校	
任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日		

○野洲市家庭教育支援員設置要綱

令和5年1月24日

教育委員会告示第3号

(趣旨)

第1条 この告示は、社会教育法（昭和24年法律第207号）第5条第1項第7号に規定する事務を推進するため、野洲市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に野洲市家庭教育支援員（以下「支援員」という。）を設置することとし、その設置に関し必要な事項を定めるものとする。

(定数)

第2条 教育委員会は、市立の小学校及び中学校ごとに、それぞれの学校及び地域の実情に応じ、2人以内で支援員を置くことができる。

(委嘱)

第3条 教育委員会が、支援員を委嘱するに当たっては、次に掲げる要件の全てに該当する者のうちから、その学校の学校長の推薦を受け、これを行うものとする。

- (1) 地域において社会的信望がある者
- (2) 家庭教育の推進に熱意と見識を有する者

(任期)

第4条 支援員の任期は、委嘱された日からその日が属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

2 教育委員会は、支援員が次のいずれかに該当すると認めた場合は、任期の満了前であっても委嘱を解くことができる。

- (1) 心身の故障のため活動の継続に支障があり、又はこれに堪えられないと認められる場合
- (2) その他支援員としてふさわしくない行為があったと認められる場合

(活動内容)

第5条 支援員の活動は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 保護者の主体的な学びや育ちに関する学習機会等の案内及び情報提供に関すること。
- (2) 子育てに関する不安や悩みを抱え、孤立しがちな状況にある保護者に対し、学校と連携した相談支援及び関係機関との連携の支援に関すること。
- (3) 児童生徒の登校の支援や教室でのつながり、教職員との情報交換を通して学校と保護者との信頼関係づくりに関すること。
- (4) その他保護者が家庭において安心して子育て及び教育を行うために教育長が必要と認める事項
(野洲市家庭教育支援員連絡協議会)

第6条 教育委員会に野洲市家庭教育支援員連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）を設置する。

2 教育委員会は、必要に応じ、連絡協議会の会議を開催し、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 支援員が行う活動、家庭教育の課題等についての情報交換に関すること。

(2) 家庭教育の課題等についての研究、協議、提言に関すること。

(3) その他支援員を設置するために必要な事項

(守秘義務)

第7条 支援員は、その活動上知り得た秘密を漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第8条 支援員及び連絡協議会に関する庶務は、教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか、支援員及び連絡協議会に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

付 則

この告示は、令和5年4月1日から施行する。

令和8年度 地域学校協働活動推進員名簿

氏名	所属団体等	備考
田中 康子	中主幼稚園	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
田中 恭子	野洲幼稚園/野洲小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
北脇 きよみ	祇王幼稚園/祇王小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
小川 美知	北野幼稚園	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
川端 一	中主小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
木村 貞樹	篠原小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
森本 恭子	三上小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
奥野智恵子	三上小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
橘 円	北野小学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
田中 修	中主中学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
北村 友香	野洲中学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
佐藤 真耶	野洲北中学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	
加藤 庸子	野洲北中学校	
	任期:令和8年4月1日~令和9年3月31日	

○野洲市地域学校協働活動推進員設置要綱

令和3年10月29日

教育委員会告示第26号

(趣旨)

第1条 この告示は、社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第9条の7第1項の規定に基づき野洲市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する地域学校協働活動推進員（以下「推進員」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 推進員は、法第5条第2項に規定する地域学校協働活動に関する事項につき、教育委員会の施策に協力して、地域住民等と市内の幼稚園、小学校及び中学校（以下「学校園」という。）との間の情報の共有を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対する助言その他の援助を行うことを目的とする。

(令6教委告示3・一部改正)

(設置)

第3条 教育委員会は、学校園ごとに推進員を置くことができる。

(令6教委告示3・一部改正)

(定数)

第4条 推進員の数は、地域の実情を考慮の上、各学校園に1人程度を原則とする。ただし、同一の推進員が複数の学校園を担当することを妨げない。

(令6教委告示3・一部改正)

(資格及び委嘱)

第5条 推進員の委嘱は、次の各号の全ての資格の要件に該当する者のうちから、当該学校園の校長又は園長の推薦により、教育委員会がこれを行う。

- (1) 地域において社会的信望がある者
- (2) 地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者

(令6教委告示3・一部改正)

(委嘱期間及び委嘱の解除)

第6条 推進員の委嘱期間は、委嘱を受けた日からその日が属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

2 教育委員会は、推進員が次の各号のいずれかに該当すると認められた場合は、任期の満了前であっても委嘱を解くことができる。

- (1) 心身の故障のため活動の継続に支障があり、又はこれに堪えられないと認められる場合
- (2) その他推進員としてふさわしくない行為を行ったと認められる場合

(活動内容)

第7条 推進員の活動内容は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 地域の教育課題解決に必要な総合的な連絡調整に関する活動
- (2) 地域及び学校の教育活動への支援、企画及び参加促進に関する活動
- (3) 学校運営協議会その他必要な協議体との連携調整に関する活動
- (4) その他推進員の設置の目的を達成するために必要な活動

(推進員連絡協議会)

第8条 教育委員会は、次に掲げる事項を協議するため、必要に応じて地域学校協働活動推進員連絡協議会(第10条において「推進員連絡協議会」という。)を設置し、その会議を開催することができる。

- (1) 推進員の行う活動や教育課題等についての情報交換に関すること。
- (2) 地域の教育課題等についての研究、協議、提言等に関すること。
- (3) その他推進員の設置の目的を達成するために必要な事項

(令6教委告示3・一部改正)

(守秘義務)

第9条 推進員は、その活動上知り得た秘密を漏らしてはならない。また、推進員の委嘱期間終了後も同様とする。

(令6教委告示3・一部改正)

(事務局)

第10条 推進員及び推進員連絡協議会の庶務は、教育委員会事務局内の担当課において処理する。

(委任)

第11条 この告示に定めるもののほか、推進員に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

付 則

この告示は、令和3年11月1日から施行する。

付 則 (令和6年教委告示第3号)

この告示は、令和6年4月1日から施行する。

令和7年度 学校評価結果報告書

報告事項③

野洲市立中主小学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	評価に対する意見	
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	A			・子どもたちが学びたくなるような導入やめあめの設定を考えた授業を展開した。 ・単元を通して子どもにつけたい力を考えて、授業を構成した。 ・学習規律を整えることに尽力した。	○授業づくり ・「自分の思いを伝え合う学習集団」にするために、授業の中で十分に対話をする機会を多く設定する。 ・「話が聞ける学習集団」にするために学習規律を整えることを徹底する。 ・個別最適な学びを提供できるように、環境調整や支援方法を探る。 ・学年間で進度を調整したり、指導法や教材教具などを情報共有する。 ○家庭学習・基礎学力の定着 ・家庭に協力を求めて、我が子のことに関心を持ち、児童と向き合ってもらうことは大切。 ・家庭学習ががんばり週間に、保護者に丸つけを依頼する。 ○読書活動 ・本に親しむ時間の確保をする。 ・教師も児童と一緒に読書に親しむ。 ・学校司書の活用方法を、年間計画の中に位置づけていく。
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	A	A	B	・家庭教育ががんばり週間で、事前に学習計画を立てる時間を取ることで、計画的に学習を進められるようにした。 ・学校でどんな学習をしているのかわ、家庭に向けて通信等で積極的の知らせしていくことを意識した。 ・読み聞かせの時間を多くとるように心がけた。 ・昼の読書タイムが定着し、落ち着いて5時間間目を始めることができた。 ・学校図書館司書の活用が進んでいるので、次年度に向けて更なる活用方法を検討したい。	
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	B				
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A			・言葉遣いが気になる児童に繰り返し指導をしている。1度の指導で変わるわけではないので、あきらめずに続けた。 ・道徳の授業で考えたことを実生活と結び付けて生活できる学級経営を心がけた。	○言葉遣いが要因となりトラブルになることが多い。軽い気持ちのからかいが、大きなトラブルになる。一つひとつのトラブルに丁寧に対応してもらってあげたい。 ○相手の立場に立って考え、いろんな考え方を尊重する姿勢を日常から教師が意識して児童に関わる。 ○自分本位の考え方に対して、相手がどんな気持ちになっているかを丁寧に説明を行う。 ○暴力に対しては絶対に許さないという毅然とした態度で指導に当たる。 ○自己有用期の育成 ・掃除の時間、一人ひとりの仕事の役目を明確にして責任をもって取り組めるようにする。 ・支援学級児童の教室移動の際には、学級全体で声をかける。 ○保護者と連絡を密に取って連携を図る。 ・気がかかる児童には、よい姿が見られた時に連絡し、関係を作る。 ・家庭と共有すべきことや日頃の保護者の思いも聞くようにする。
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い・高め合える学級・学年づくりをしている。	A	A	A	・話し合いで決めた学級の約束を子どもたちが意識できるように心がけた。 ・交流学級の子も子どもたちが安心できるように、担任同士が連絡を密にし安心してできる環境づくりを整えた。	
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	B			・学級会を定期的に関き、自治意識やのスキル向上に励んだ。 ・教師が主導する場面と子どもたちに任せる場面との線引きを教師が共有する必要がある。	
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	A			・児童の気持ちに寄り添った対応を心がけ、安心感を与えることができた。 ・どの児童も学級に居場所があるように周りの環境を整えたり、声をかけたりすることを意識した。	○教育相談 ・児童の思いに寄り添って対応することを継続する。 ・教室に入りにくい児童の居場所を作る。安心できる場所があることで気持ちを落ち着け、教室に向かう準備を整えるようにする。 ○生活支援 ・生活リズムの乱れ等から登校しにくい児童に与えるようにする。 ・市教委、ふれ相、児相など関係機関と連携して支援を必要とする家庭と関わる。 ○社会規範 ・児童会が中心となり、自分たちの課題に対して課題意識を持ち、解決方法を教師とともに考えるようにする。 ・「時間を守る」「廊下を走らない」などの基本的なルールを守るよう、全教職員で共通の指導を徹底する。
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A	A	B	・まずは子どもの実態を知ること(家庭や地域での現状を知ること)を心がけた。 ・関係機関(ふれ相・児相・家児相など)と連携をして支援をすることができた。	
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	B			・児童会で「あいさつ運動」を行い、シールを渡すことで、あいさつができたことの見えぬ化を図った。 ・あいさつを定着させるためには、継続した取組が必要である。	
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	A	B	A	・地域連携コーディネーターが核となり、地域連携の取組を進めた。 ・単発の学習支援だけではなく、教育課程への地域学習の位置づけをおこなった。 ・保護者や地域に、学校の様子が分かりやすい学校だよりを心がけて作成をした。 ・ホームページの「中主小日記」の更新をこまめに行った。	○地域連携コーディネーターのコーディネート ・地域連携の取組を進めた。今後もできる限り地域の人材に声をかけ、児童たちのために支援できることを増やしていきたい。 ○PTAとうまく連携をとり、学校運営に参画してもらえよう。 ○情報発信 ・学校だよりや学年通信、学級通信にとどまらず、学校での出来事をその都度発信して、保護者や地域の方に学校のことを知っていただく機会を増やす。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	B				
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B		・個人や学年で目標時刻を決め、退勤時刻を意識しながら、勤務にあたることができた。 ・働きがいを感じられるように、同僚性の構築や情報共有を目的とした学年主任会を設けた。	○学年間の報・連・相を徹底する ・学年間での連携を密にし、児童の情報共有や課題解決を早期に行えるようにする。 ○定時退勤を意識することで業務の効率化を図る。 ・各自、各学年で定時退勤日を決める。

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

(1) 校内研究の主題を「進んで学び、自分の考えを伝え合える中主っ子の育成」とし、国語科における授業改善に取り組んだ。単元における指導の重点(児童につけたい力)を明らかにし、授業を構成することで、児童の学習意欲の向上や、相手の意見を自分の考えと比べながら聞く力の向上につながった。
 (2) 地域や保護者(PTA)とともに児童につけたい力や目指す姿を共有し、学校運営を行うことができた。また、地域教材を教育課程の中に地域学校協働活動を位置づけ、継続した取組になるようにした。
 (3) 働き方改革については、教師の「働きがい」にも注目し、学校運営に多くの教師の意見が取り入れられるように学年主任会を設置し、情報交換や同僚性の構築を狙った取組をおこなった。

【学校関係者評価の総評】

(1) 学校評価の教値で一喜一憂することはないのではないか。肯定的意見を100%にすることを目標にするのではなく、目の前にいる児童との時間を大切に關わってやってほしい。
 (2) 児童アンケートを大人たちだけが見て、課題解決のために考えるのではなく、アンケート結果を児童に返すことで、児童自身が自分たちの課題に向き合い、課題解決に向けて何が出来るのかを考えてよいのではないかと。教師は忙しすぎるので、地域として協力できることは協力していきたい。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立篠原小学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	評価に対する考え	指標 評定	評価に対する意見	
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	A	A	教員が授業改善の意識を高く持って日々の授業を行った。校内研究で算教科を窓口にして「振り返り活動」を有効にはたかせ、児童の学習意欲を高めた。	B	・学習意欲が高められたことはすばらしい。また、児童の読書が日常になればよい。 ・教職員が一丸となって授業づくりに取り組んでいる熱意が感じられる。 ・児童アンケートの「学習の発表は得意か」の評価が低い学年があることが気になる。	・自分の考えをまとめて書く力、発表できる力の育成できるように、授業づくりに取り組む。 ・引き続き、児童の学習意欲を高められる授業改善を図り、校内研究を充実させる。 ・学校司書の力を借りながら、学校図書館の機能を充実させ、読書活動をさらに活発化させる。
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	B		家庭学習ががんばり週間に学期に1回年間計3回設け、学習習慣の定着を図ったが、毎日の自主的な家庭学習の習慣化にまでは至らなかった。			
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	A		学級では読書の時間を確保し、静かに読書に取り組むようにした。学校司書の配置、学校応援ボランティアによる朝の読み聞かせにより、本に親しむ児童が増え、本の貸し出し数が前年比3倍になった。			
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A	B	人権を確かめる日の取組では、朝の学習の時間に全校で放送を聞き、みんなが安心して過ごすためにどうすればよいか考えた。また、「いじめは絶対にはいけない、見逃さない」ことを教職員が強く意識して児童に向き合った。	B	・人権教育は、何度も何度も繰り返すことが必要。 ・児童が学級の中での自分の役割を果たすために、役割表を確認しながら一生懸命自分の仕事に取り組んでいる姿が印象的だ。	・「いじめは絶対にはいけない、見逃さない」という教職員の姿勢は崩さず、児童と向き合う。 ・各学級で児童の善い行いを認め、学級全体に広めることで、多くの児童が善い行いをし、気持ちよく学校生活が送れるようにする。 ・日頃からの人権教育を大切にした学校づくりを進める。
	⑤	学級・学年活動	児童一人ひとりが認め合い、高め合える学級・学年づくりをしている。	B		各学級で、個に応じた支援や指導を行いながら、よいところをほめて認めることで、児童の意識の中にも互いに認め合うことの大切さを浸透させるようにした。			
	⑥	学校行事	児童が自らの役割を自覚し、仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	B		教師の助言や支援の下、児童一人ひとりが自分のめあてを決めて各行事に取り組んだ。児童には達成感を得られるように、振り返りの際に努力した点やよかったことなどを挙げ、褒め称えた。			
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から児童の思いに耳を傾け、児童に寄り添った教育相談をしている。	A	A	教職員が常に児童の思いに気を配り、相談に乗ることができた。自分の思いを強く主張する児童にも粘り強く正しい行動に導くようにはたらきかけることができた。	A	・学校内で子どもたちの方から積極的に挨拶をしてくれる姿がとても印象的だ。 ・笑顔で「おはようございます」「こんにちは」と言う子どもたちが増えるとうい。 ・登下校の些細な子どもたちのやりとりにも気を配り、清掃については、しのっ応援ボランティアを募集する。さらに清掃場所や時間を見直し、指導を徹底していく。	・一人ひとりの児童の思いに寄り添い、児童が安心して学校生活が送れるように、いつでも児童の相談に乗ったり教師側からはたらきかけたりする体制をつくる。 ・引き続き、家庭教育支援員、SC、SSW、関係機関と連携をとり、支援の必要な児童や家庭に適切な支援を行う。 ・清掃については、しのっ応援ボランティアを募集する。さらに清掃場所や時間を見直し、指導を徹底していく。
	⑧	生活支援	児童の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A		生徒指導主任を中心に、SC、SSW、家庭教育支援員、市や県の関係機関と連携し、支援の必要な児童や家庭に適切な支援を行うことができた。			
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなどの規範意識を育てている。	B		「すきで篠原」の合言葉の徹底を図る取組を進めた。すべての教職員が、進んであいさつや清掃活動に取り組んだり、ルールを守ることを示したりしたが、児童の意識が十分に高まるまでには至らなかった。			
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材活用しながら教育を進めている。	B	A	学校応援ボランティアを募り、必要に応じて児童の活動の支援に来ていただいた。積極的に児童に関わろうとしてくださる方が多く、児童にとっても優しい手助けがしてもらって喜んでいた。	A	・地域と学校とがともに話し合い、連携できる体制が整ってきた。 ・大変丁寧に日々の活動の様子を発信されていてすばらしい。	・地域学校協働活動を充実させるために、学校や各学年の行事や活動の年間予定の中に必要なボランティアの人員を組み入れ、その一覧表を地域コーディネーターを通じて地域に周知できる仕組みを構築する。 ・引き続き、ホームページや学校だよりや学年通信などで学校の活動の様子を地域に発信する。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で、学校や児童の様子を伝えている。	A		ホームページや学校だより、学級通信等で学校の学習や生活の様子を発信することができた。また、今年度より応援ボランティア活動通信を発行し、協力いただいた活動の様子を地域に知らせた。			
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B	超過勤務は全体的に少なく、早めの退勤ができていた。日常業務については、ICTを活用し、既存のデータを有効活用して今年度用に修正しながら学習指導や校務分掌の業務を行った。	B	・教育の現場で働く教職員の皆さんは大変だろうと推察する。くれぐれも健康第一で頑張ってもらいたい。 ・時間を意識した業務を心がけ、超過勤務の削減に努める。 ・ICTを有効活用し、既存のデータを使いながら効率よく業務を進める。	

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

各担任が授業改善の意識を高く持ち、学習指導を行うことができた。また、図書館司書が配置されたことで、図書館の整備が進み、児童の読書に対する意識が高まった。
生徒指導面では、関係機関と連携しながら課題解決に向けた取組を進めることができた。
地域学校協働の取組が増えたことで、地域と学校とがつながる機会が増え、多くの地域の方と児童とが触れ合うことができた。

【学校関係者評価の総評】

地域に開かれた学校となるよう、ボランティアの募集や学校と地域の話し合いなど、学校は積極的に取り組んでいる。地域から学校へ向けての連携の提案も前向きに受け止めてもらい、大変心強い。今後お願いしたい。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立祇王小学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて		
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	指標 評定			
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習は、授業で学習したことを振り返りすることで、学力が身につけていく。そのために習慣が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を重視した学習場面を多く取り入れていく。「ペアタイム」など掲示することで視覚的にも学習活動を明記し、意識づけをしていく。 		
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジウィーク(家庭学習ががんばり週間)を設定している。家庭学習に向かう習慣づくりに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習は、基礎基本定着を図る。チャレンジウィークでは、「計画」、「見取り」、「振り返り」を大切に自主学習を進め探求する力をつけていく。
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書タイム、うち読フライデー、参親日の図書館開放等本に親しむ取組ができた。 ・学校図書館支援員との連携や委員会活動の取組等により、図書館利用者数が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者を巻き込み取り組みをさらに活性化し読書活動の充実を図る。読書したいときにすぐに手に取れる環境整備を行っていく。
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉にして伝えることの大切さを強く感じている。答えをすぐに与えるのではなく、子ども自身が考え、参加している実感を持てるようにすることが重要だと思う。また、成功体験を言葉にして共有することで、より確かな自信につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の重みを感じ、自分が使う言葉に責任がもてる子どもを育てるために、「えがおデイ」のテーマを再考し、家庭で話し合いの機会を作るよう周知し、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいく。 ・学年や学年部で子どもの様子を語るようにし、職員会議で良い実践を紹介することで共有していく。 ・委員会の活動の整理をしていく。また、行事や児童会活動など振り返りをたいせつにし、できたことへの価値づけをしていく。 		
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い・高め合える学級・学年づくりをしている。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・プラスワンパワーチャレンジで、気づき行動できる子が増えてきた。 ・子ども同士をつなぐ活動を取り入れ、安心できる居場所づくりに引き続き努める。 	
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに任せ活動させる場面は増えた。はっきりとした目的をもたせることで自主的な活動ができた。 ・代表委員会を立ち上げたが、子ども自身で学校を創っていくとする 	
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、学校、保護者が一体となってあいさつ運動に取り組んだことで、成果が出始めている。今後もしっかり連携しながら進めていきたい。 ・親同士のつながりづくりも必要。学校運営協議会でも模索したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の温かい関わりを継続していく。子どもの思いを否定せずに受け止める。オープンエスチョンを大切に、子どもの思いを引き出していく。 ・様々な背景を持つ子に対しての理解を深める。情報をしっかり共有し、全職員が関わることで子どもの味方を増やす。ケース会議で決まったことの事後確認や見届けを行う。 ・教員の時間の意識の徹底。特に始まりの時間を意識し徹底させる。学校のきまりを保護者へも周知し、家庭と学校が一体となって進めていく。 		
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活背景を組織で情報共有し、不登校や虐待、問題行動に対し、迅速に対応できた。 ・地域と連携を図り、支援に生かされた。 	
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から仲間のことを考えた行動を意識させるような声かけを増やした。 ・善悪の判断や規範意識の弱さが課題。教師自身も時間を守っていく必要がある。 	
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、子どもたちの声を直接聞く機会「しゃべり場」を設けた。非常に有意義な時間であった。子どもたちの声をヒントにできることを考えていきたい。 ・「読み聞かせボランティア」や「九九マスター」など地域と学校が一体となって子どもたちの教育や地域活動を推進する仕組みが進んできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しゃべり場」を定例化し、子どもたちの意見が反映されるような学校づくりができるようにしていく。 ・tetoru配信については【重要】などの文言をつけていく。 		
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	A					<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりとtetoru配信で早めの行事のお知らせや緊急連絡を適切に発信できた。 ・tetoru配信では、スクールガードの未登録が多く、課題が残る。 	
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメントは必要。そのためには事前の準備が大切。要点を絞って協議することが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に会議資料を配付し、協議事項をわかりやすくしておくことで、説明の時間を省いていく。 ・働き方改革推進委員会を機能させ、負担に感じていることを軽減していく。 		

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

・読書活動では、学校図書館支援員と協働することで読書活動が活性化した。
 ・地域学校協働活動推進員を中心にボランティア登録名簿の作成が進んだ。項目ごとにリスト化し、引き続き地域と連携した教育活動を進めていく。
 ・学び合い、高め合える同僚性の高い教職員集団を作るために、OJTなど気軽に語り合える組織や学習会が必要である。
 ・子どものよりよい成長のために学校の取組に対して保護者への説明をしっかりと行うことで、家庭と学校が一体となり進めることが必要である。

【学校関係者評価の総評】

・家庭学習や読書活動などは、必ずよりよい効果ができるため習慣化に向けて粘り強く指導してほしい。
 ・働き方改革については、学連協で学校の課題解決に向けたバックアップができるようにしていきたい。
 ・課題は、家庭教育力の弱さや横繋がりの薄さ。これが子どもに影響を及ぼしている。今後の学連協でも話題にし、具体的な取組を検討したい。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立三上小学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価(児童・保護者・教職員)		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	評価に対する意見	
学力向上	①	授業づくり	児童の学び力向上にむけ、基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは落ち着いて積極的に授業に参加できている。 家庭学習については、子どもにも実態を伝え、児童自ら考えさせることも必要だろう。3UPががんばり週間時に、具体的な学級目標を設定してはどうか。 子ども同士で「おすすめの本」を紹介する時間を作ったり、本の紹介をコーナーを各教室前で作ってみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が明確なめあてをもって主体的に学んでいる授業を目指し、教材や課題との合わせ方を工夫する。 低学年から言語活動の充実を図る。 高まりのある話し合い活動になるよう、内容や形態等を工夫しつつ、機会を設定していく。
	②	家庭学習	家庭学習の計画や方法を助言するとともに、児童が意欲的・計画的に家庭学習を進められるよう努めている。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童・教職員ともに昨年度や前期よりも強肯定が増加している。 中身のある家庭学習となるよう、自主学習の進め方やリーフレットの活用について、指導と支援が必要である。 児童も教職員も保護者も否定的評価が増加している。読書習慣の定着に向けたさらなる改善策が必要である。 お話を聞かせる等は、好きな児童も多いが、教師による読み聞かせや意図的な図書室での読書等を仕組んでいく方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かしこく3UP」を重視した3UP運動リーフレットとなるよう形式を検討、自主学習も運動させ、内容や取り組み方についても年度当初に徹底する。 教師や外部講師だけでなく、高学年による読み聞かせの機会を設定していく。 1週間に1回は学級で借りに行く時間を設け、学校図書館をさらに活用する。
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学び対話し合える活動となるよう、内容や形態を工夫しながら、授業改善に取り組んでいる。 昨年度に比べ保護者の評価も向上、約6割の児童が「よく分かる」と強肯定している。 児童も教職員も保護者も否定的評価が増加している。読書習慣の定着に向けたさらなる改善策が必要である。 お話を聞かせる等は、好きな児童も多いが、教師による読み聞かせや意図的な図書室での読書等を仕組んでいく方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学んでいる活動となるよう、内容や形態を工夫しながら、授業改善に取り組んでいる。 昨年度に比べ保護者の評価も向上、約6割の児童が「よく分かる」と強肯定している。 児童も教職員も保護者も否定的評価が増加している。読書習慣の定着に向けたさらなる改善策が必要である。 お話を聞かせる等は、好きな児童も多いが、教師による読み聞かせや意図的な図書室での読書等を仕組んでいく方がよい。
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権について児童の強肯定割合が若干減少。小さなことを見逃さず人権意識を磨いていく必要がある。 自分の考えを持っているものの、発表まで至らずにできていると感じている児童がいるように推察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発行人権週間の取組は自分事として考えられる大切な機会であるため、継続していく。 毎月の人権放送は今後の学級での話し合いを大切にし、年間を通して様々なテーマについて考えられるよう、年度当初に検討する。 児童が安心して自己表現できるよう引き続き、うなずきながら聴くことを大切に継続していく。 ICTを活用して発言することだけでなく、書いて思いを表出する場面設定をする。 三上っ子会議や縦割り遊び等、児童が主体的に考え、仲間と協力しながら活動できる機会を引き続き充実させていく。
	⑤	学級活動	一人ひとりの思いが出せる機会を設け、安心して失敗・再挑戦できる学級づくりに努めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 前期に比べ、児童の肯定的評価が増え、否定的評価は2.7%と少し減っている。 学級活動や係活動、みんな遊び等の場面で、自分の思いや考えを表出でき、安心して過ごせる環境になっきていると言える。 保護者の肯定的評価がほぼ100%であり、評価いただいている。 三上っ子会議や縦割り遊び、係活動等、児童が主体的に考え仲間と協力しながら活動できる機会を設けることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の意見を聞く雰囲気づくりが大切である。安心して自分の考えや意見を出せる集団であることが、すべてにつながるため、「人の話をしっかりと聴ける仲間」を育ててほしい。 子どもたちの評価が高いことから、子どもたちが学校生活を楽しくしている様子がうかがえる。「学校が楽しい」と感じられる取組を今後も大切にしていってほしい。
	⑥	学校行事	行事や児童会活動等で、児童が自分の役割を自覚し、仲間と協力しながら心身ともに成長する活動を進めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回の「ホッととはータイム」だけでなく、日常的に児童の思いに耳を傾け、変化に気づく必要がある。 担任だけでなく、学校全体で全児童を見守り、情報共有していくことが重要。 担任だけでなく、特支担任や教育相談担当、生徒指導担当、SSWやSC等の関係機関との連携も、できるだけ速やかに対応できている。 保護者との関係づくりや丁寧な対応を忘れてはいけない。 児童は高評価であるが、挨拶を返せても、自分から進んできている子は多くはない。保護者も十分でないと感じている。 ルールやきまりを守ろうとする意識が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを出しにくい子は少ないとは言え、継続して一人ひとりの子どもたちの思いや様子を見取っていただきたい。 「児童のことを気にかけている」という担任や学校の思いは伝わっている。引き続きしっかりと伝え続けてほしい。 「あいさつ」については、地域ではしている子どもも多い。家や地域での声かけも必要である。長い目で見て、大人がモデルを示すことも必要だと感じる。
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から児童の思いに耳を傾け、児童に寄り添った教育相談をしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回の「ホッととはータイム」だけでなく、日常的に児童の思いに耳を傾け、変化に気づく必要がある。 担任だけでなく、学校全体で全児童を見守り、情報共有していくことが重要。 担任だけでなく、特支担任や教育相談担当、生徒指導担当、SSWやSC等の関係機関との連携も、できるだけ速やかに対応できている。 保護者との関係づくりや丁寧な対応を忘れてはいけない。 児童は高評価であるが、挨拶を返せても、自分から進んできている子は多くはない。保護者も十分でないと感じている。 ルールやきまりを守ろうとする意識が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で、児童に日常的に声かけをし、関わりを持ち、教職員間ではタイムリーに情報共有を密にし合いながら、子どもたちをしっかりと見とる。 ホッととはータイムを有効に活用しながら、児童の思いや変化に気づけるよう努める。 関係機関や地域、保護者との迅速かつ丁寧な連携、関係づくりにより一層努める。 挨拶は今後もPTAや地域とともに継続して声をかけ続ける。
	⑧	生活支援	児童の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら、個に応じた適切な支援をしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会や学連協、PTAと連携、協働しながら、子どもたちのために関わろうとする体制は整いつつある。 保護者の肯定的評価も約96%と非常に高い。 ホームページや学校だより、テル配信等による情報発信は、十分にできている。 保護者からも高評価をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働活動は、今後も三上らしく、推進していく。自治連合会に学連協会長・PTA会長・校長が出席したが、今後も2回は出席できるといい。 テルやホームページを使った情報発信は大変よい。情報発信は迅速さが大切である。学校の様子がよく分かるため、今後も発信を続けてほしい。
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、仲間のことを考えた安全な行動を考えさせるなどして規範意識を高めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、教職員、保護者、地域のみんなが生きていきいきと元気に三上を目指したい。 教職員の負担が少しでも減らせるよう地域としてこれからも協力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、地域、教職員がいきいきと元気になる取組を続ける。 年間を通して計画的に、地域人材活用による教員の負担軽減を引き続き図っていく。
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、地域のおよさを活用しながら教育活動を進めている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会や学連協、PTAと連携、協働しながら、子どもたちのために関わろうとする体制は整いつつある。 保護者の肯定的評価も約96%と非常に高い。 ホームページや学校だより、テル配信等による情報発信は、十分にできている。 保護者からも高評価をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働活動は、今後も三上らしく、推進していく。自治連合会に学連協会長・PTA会長・校長が出席したが、今後も2回は出席できるといい。 テルやホームページを使った情報発信は大変よい。情報発信は迅速さが大切である。学校の様子がよく分かるため、今後も発信を続けてほしい。
	⑪	情報発信	学校だよりやホームページ等で、学校や児童の様子を伝えている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、地域、教職員がいきいきと元気になる取組を続ける。 年間を通して計画的に、地域人材活用による教員の負担軽減を引き続き図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学習や行事の様子等をICTを活用しながらこまめに情報発信し続けていく。
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、地域、教職員がいきいきと元気になる取組を続ける。 年間を通して計画的に、地域人材活用による教員の負担軽減を引き続き図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、地域、教職員がいきいきと元気になる取組を続ける。 年間を通して計画的に、地域人材活用による教員の負担軽減を引き続き図っていく。

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

第1チャレンジ(仲間づくり)と第2チャレンジ(学力の向上)については、保護者評価で肯定的評価90%以上であり達成できたが、第3チャレンジ(たくましい心身)については、75%程度であり、「あきらめず」にやり続ける活躍の機会を大切に、努力の過程をしっかりと見とり、評価・称賛をしていく必要がある。

地域との関わりや体験的な活動がますます充実してきている。地域や保護者への情報発信を今後も丁寧にしつつ、子どもたちが学んだことを多くの人に発表・交流する機会を設定していく。

②家庭学習については、年度当初に内容や取組方について、学校では指導を徹底し、家庭に協力を求める。

③読書活動については、学校図書館を計画的に活用するとともに、教員や地域の読み聞かせの回数を増やすとともに、子どもによる読み聞かせの機会も設定していく。

全教職員で児童や学級についての情報共有に努め、学校全体で組織的に支援していく環境ができてきた。それが、児童の居心地のよさや教職員の働きやすさにつながっていると感じる。学校教育改善を今後も継続していきたい。

【学校関係者評価の総評】

全体的に児童の評価が高く、児童が楽しく学校生活を送れている表れであり、日頃からの教職員の働きかけの成果であると感じる。学校全体の雰囲気もよく、学校に来てとても気持ちがいい。各取組については、より具体的な目標設定をすることで評価がしやすくなる。引き続き学校改善を進めてほしい。

めざす子ども像については、おおむね達成できていると言っており、教員と児童が話せる機会を大事にすることで、児童とのコミュニケーションが図られ、児童も落ち着き、全体的な改善につながっていると感じる。

読書やあいさつは、周りの大人が根気よく読書のよさやあいさつの気持ちよさを伝え続けていく必要がある。大人が読書やあいさつをしている姿を児童に見えることも大事である。また、児童が自分ごととして考えられる力や自分から発信する力を伸ばしているよう、地域も協力し、応援していくことを継続していきたい。

机上の学習だけでなく、体験学習を地域の協力のもと進められていることが素晴らしい。地域連携が深まっている。今後も地域・家庭・学校の連携をさらに密にしていきたいことが大事である。

情報を共有するツールとして、テルによる情報発信は大変役に立っていると感じている。今後も学校の取組を情報発信してもらえことを望む。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立野洲小学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	評価に対する意見	
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習頑張り週間以外でも自分の就寝時間や勉強時間、動画やゲームの時間を把握し規則正しい生活が送れるような取り組みをしてほしい。 ・普段全く本を読みませんが、家読週間には頑張って読んでいました。 ・家で勤めてもなかなか読書をするに至らないので、宿題など学校からの働きかけはありがたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの交流の機会を増やすことが大切になる。そのため、例えば、算数であれば、自分の考えの後は、交流すると型や流れを決めてしまうのも一つの方法であると感じた。またICTを効果的に使いながら簡単に友達の考えを交流できるように工夫したい必要がある。 ・何について話すのか活動前に共通理解できるように。視覚支援も必要に応じて用意する。 ・自分の苦手分野を復習したり、興味を持ったことに対してより深い学びをしていったり、読書に親しんだり・・・という目的を児童へも保護者へも再度周知したい。 ・来年度も引き続き、子どもたちが主体的に学習することを意識した授業づくりをしていく。児童自身が、問題発見したり解決の手段を考えようとしたりする授業を仕組んで増やしていきたい。
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	A				
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	A				
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの言葉づかいが荒くなっていることが気になっています。 ・いつも先生方には、温かくしてもらっていると感じています。 ・水泳の授業が真冬にあるのは何とかならないのか。本来暑い時期の運動を避ける目的もあるはず。しかもわずか3日間。たった3日で何が出来るのか疑問。そのためだけのスクール水着も無駄。改善して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やめなさい」「しません」「言いません」ではなく、子どもたちに考えさせる指導・声かけをする。否定的な言葉・ネガティブな言葉に対して、その言葉で相手がどう思うかについて考えさせる。 ・人と関わる力・会話する力を授業内で育てる工夫(グループ学習、グループ相談会、あいさつ、握手・・・など) ・子どもたちができることを増やす。→できた時の評価(何がよいのか具体的に言葉で伝える)、やりきらせる、情報共有
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い・高め合える学級・学年づくりをしている。	A				
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	B				
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不安がある子や困り事がある子もたくさんいる中で、可能な限り個別に対応していただいとて有難いです。先生方の負担になりすぎないのか心配です。 ・ひとクラス35人は担任1人に背負わせるのは多すぎるのではないのでしょうか。教員を増やす、無理ならもっと補助教員を増やすべきと思われまます。 ・やすっこキャラクターが学習や日々の生活の大切なことを覚える上で、とても良い取り組みだと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつでは、教員が手本となるあいさつをすること、あいさつをしている児童を取り上げ、されても気持ちがいいことをみんなの認識にしてい。 ・ふれあい教育相談と細目な声かけや見守りを引き続き行う。 ・教師自身もルールをしっかり分かって、徹底させられるようにするとともに、4月に保護者向けにもルールについてのお手紙を出す。
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A				
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	B				
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での価値観の違いや優先順位が異なる学校での集団生活は年々大変になっているように思います。だからこそ、保護者が手伝えることは、もっと募集して下さったら良いかと思ひます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域との連携や、相互に関連して教育を進めていきたい。 ・やすっこ応援団の活動や登下校の指導、ゲストティーチャーの活用など地域で行って下さることをさらに発信していく。 ・教師の負担にならない方法で、学校の様子が伝えられる方法をさらに探っていく。テトル配信をさらに活用する。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	B				
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・教員間でこれから些細なことから、コミュニケーションを取れるようにしていきたい。 ・定時退勤日を設定する。(学年間で共有しておく) 	

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

○「あたりまえをあたりまえにできる」教育・子どもたちへの指導・声かけ
 ・子どもたちへの日々の声かけ、支援が必要な子どもへの指導の工夫。
 → すべての子どもたちへの支援、明日も来なくなる学校につながる。
 ・「よいことはよい」「ダメなことはダメ」褒めて、叱って、子どもたちを育てる。
 ○保護者への効果的な情報発信
 ・ホームページの周知、「tutoru」を活用しての情報発信など。
 ○積極的な授業交流
 ・互いの授業を気軽に参観し合える雰囲気づくり。気軽に話せる職員室の環境。
 ○働き方改革と環境の整備
 ・子どもを育てることを第一に、快適に学び、快適に働ける、働きがいのある学校づくり。

【学校関係者評価の総評】

・子ども一人ひとりの思いに耳を傾け、子どもに寄り添った日々の取組を大切に。(ほめる、叱る、話す、遊ぶを大切に)
 ・子どもの実態に応じた家庭学習の充実や読書習慣の確立を学校と家庭・地域が連携して、目指していく。学校運営協議会の活用。
 ・働き方改革の推進。先生たちのゆとり・健康が、子どもたちの笑顔につながり、子どもたちの笑顔や成長が、先生のやりがいにつながる。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立 北野小学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	指標 評定	
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がより主体的に学ぶために、振り返りの充実を図る。 ・どの教科、どの時間の学習においても、学級間で差が出ないよう北野小の「授業の基本展開」を共通認識し行っていきたい。 ・家庭学習については、基礎基本の定着とともに、「自ら計画的に進める力」を付けるために、自主学習の取組を充実させていく。 ・読書タイムは次年度以降も継続する。落ち着いて本を読むことで、5校時の学習に備える。巡回図書を活用や読み聞かせを行うなどして読む本の幅を広げていきたい。「本は友だちカード」など、学校での取組を家庭とも共有していく。
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	B	B	B	B	
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	B	B	B	B	
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、人権学習や道徳で学習したことを通信で伝え、家庭でも一緒に考えていただく機会をとることで、保護者と連携して子供の人権感覚や道徳心を育てていきたい。 ・引き続き、全教育活動において、児童が安心して思いを出せる学習集団づくりを行う。 ・代表委員会や委員会活動、学級会活動など、児童の主体的な活動を大切にしたい。自分たちの学校や学級を自分たちでよくしたいという風土を育てたい。
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い・高め合える学級・学年づくりをしている。	A	A	A	A	
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	A	A	A	A	
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	A	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の不安や困りごとについては、担任一人で抱え込まず、学年、学校全体で組織として対応していく。北野の子を北野の職員全体で育てると意識で臨む。また、今後も必要に応じてSC、S SWや関係機関とつなぎ、適切な支援を図る。 ・学習の進め方や児童の情報共有、指導の重点について話し合うための学年会を設定する。 ・あいさつについては地域や家庭と一緒に取り組んでいきたい。
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A	A	B	B	
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	A	A	B	B	
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	A	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の運営が次年度もないと決定された。保護者がつながる場を地域で担う必要がある。 ・学校運営協議会のあり方について協議していく。子ども・学校・地域がよりよくなるように気軽に話し合える会にしたい。 ・学校運営協議会や学校応援団の活動を、通信等で発信できるとよい。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	B	B	B	B	
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を減らす、午後40分授業日の設定など、少しでも放課後の教材研究の時間を確保できるようにする。 ・同僚性を高め、やりがいを感じられる職場にしていく。

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

校内研究を中心に、子どもの「～たい」を引き出す授業展開や、振り返り活動の充実を通して、「主体的に学ぶ」子どもの育成に力を入れた。また、若手教員が増える中、どの教員も「わかりやすい授業」ができるように、OJT等の活性化を図り、学び合う職員集団作りにも力を注いだ。

仲間づくりでは、「学習支援加配」教員を中心に子どもの様子にアンテナを高く張り、情報共有と組織対応を心がけた。保護者との情報共有が不十分なことから信頼関係がゆらいだことが多く、子供や保護者とのより丁寧な関わり、共感と報告が必要である。引き続き、担任一人が抱え込まない体制の強化を図りたい。

【学校関係者評価の総評】

学力向上では、基礎基本の力をつけることを大事にしながら、共感性を高めたり、相手と折り合いをつけられる対人力をつけるべく努める必要がある。子どもの興味を喚起したり理解を促したりするために、今後も地域とともに教育活動を行っていく。また、人とのつながりの第一歩として、あいさつができる子を育てたい。学校・保護者・地域で力を合わせて取り組んでいきたい。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立中主中学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	評価に対する意見	
学力向上	①	授業づくり	学ぶ力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	B	B	B	・読書は、読む生徒・読まない生徒に分かれるため、読書貯金のような可視化した取組等があると、生徒への励みとなって成果が表れてくるかもしれない。本来は、家庭で保護者も関わって取り組むべきことであろう。 ・学習支援について、地域から協力してもらえ方に入っているところが多い。学校運営協議会からの呼びかけを含め、学力補充が充実することをめざしたい。	・授業づくりについて、教職員の肯定的評価が昨年度ほど高くないのは、十分でないかと判断しているが、現学習指導要領で求められるところの理解が教員に浸透し、その求める水準も高まっているかと予想される。校内研究はテーマを大きく変更するよりも、生徒の学びを深めるための2年次と位置づけて共通実践を進めたい。 ・学習支援について、支援員の活用にとどめず、地域から可能な限りいろんな方に関わっていただけるよう活用を進める。 ・生徒会委員会等の活動を通じて、生徒が主体となった読書活動の推進が図られるよう取組を検討していく。
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	B				
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	B				
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	A	A	A	・他の指標と比較して、保護者からの肯定的評価高い。とりわけ人権学習等における教員の本気の姿勢を示しているところに、生徒もきちんと向き合っている様子が見えてくる。一方で、残念ながら家庭で人権の話題が持ち出されることは実際なかなかないであろう。 ・生徒の仲間への言葉かけは、昔と比べて柔和なものになっており、意識の変容を感じる。率直な思いを伝えるための方言の良さ・気さきというも生徒には理解してほしいものである。	・生徒の人権学習における学びが保護者にもきちんと共有されるよう発信(通信や講演会の案内)を続けていくこと、また、それをきっかけに家庭で親子間で人権に関してふだんから話せる状況がつけられるよう働きかけていきたい。 ・集団づくりが、学級・学年活動の根幹となることから、集団の質を高めていく仕掛けを検討する。 ・学校行事について、生徒の自己存在感や人間関係づくりを進めるために、取組内容や運営のあり方の検討を続ける。
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い、高め合える学級・学年づくりをしている。	B				
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	A				
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	A	A	A	・ふだんから機会を捉えて生徒と相談する機会をもつことは大切である。SC、SSW等も活用しながら組織的な対応を続けていく。 ・全国的な調査で、子どもが「家族と一緒に食事をする」と回答した日数は300日しかなく、十分な家族団欒がない時代と言える。地域で大人がもっと声をかけて支援する体制をつくらなければならない。	・生徒の学校生活をおくる態度は、地域で見せる姿勢なども異なるところがあると考え、保護者や地域と連携しながら丁寧な指導・支援を続けていきたい。 ・教育相談について、気になることの早期発見・早期対応に努め、小学校や関係機関とも連携した対応を進める。 ・生活支援について、困難なケースには定期的な関係者会議を実施し、今後も粘り強く対応していく。 ・生徒指導の課題については、今後も生徒指導主事・学年生徒指導担当を中心に、学校で決められたことをやりきる指導を心がける。
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A				
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	B				
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	A	A	A	・生徒が希望する活動を実現させようと、地域と協議して活動計画を練ることができたことは成果である。 ・地域から、読み聞かせ活動にも協力を進めたい。 ・生徒の活動、学校の様子ができる限り伝わるように発信することは大切である。	・コミュニティサークルで、生徒による主体的な活動計画が取り入れられると、活動意欲を喚起するきっかけとなるので今後も継続していく。 ・学ぶ力向上における連携の大切さ、幼小中合同でのケース会議の必要性などを認識しているため、うち効果的な取組を進める。 ・様々な分掌からの通信を継続し、ホームページによる広報もできる限り更新を心がける。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	A				
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B		・学校行事、定期考査、入試等の実施時期を見据えて日課を調整し、教員にも無理のないよう運用した。教育課程を意識しつつ、学校運営協議会の意見を踏まえながら、よりよいあり方を模索していきたい。 ・部活動は、市主体の地域移行の方向性を踏まえながら活動のあり方を検討する。 ・地域や保護者の理解を得ながら働き方改革を進める。	

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

学ぶ力向上については、校内研究で「生徒の『生きる力』を育む国語力を伸ばす授業づくり～授業UDとUDLの視点によるアプローチを通して～」をテーマに、基礎的・基本的な知識・技能の反復練習の充実をベースとし、「授業UD」「UDL」をヒントに個別最適な学びが実現することをねらった。昨年度から県教委指定事業を受けていることから、今年度は学校訪問時に全教員で研究授業参観、研究協議を実施できたように、次年度も共通した授業実践を検討したい。

集団づくりについては、人権意識の向上について生徒からの評価が高く、教員からも高い意識で指導してきた自覚のあることがわかる。生徒指導と併せ、今後ともかいかいや人を傷つける言葉等、差別・いじめにつながる事象を見逃さず、適切な指導を心がけ、安心・安全に過ごせる居場所づくりを進めていきたい。そのために決められたことを組織的・継続的にやりきる指導、集団の質を高める仕掛けを考えていく必要がある。学校行事については、他項目より生徒・保護者とも比較的评价が高かった。様々な取組を通して、生徒の活躍できる場を増やし、自己存在感を高め、仲間づくりも進めていきたい。

連携については、学校運営協議会と連携しつつ地域とつながりを深めたり、チャッピーコミュニティサークルを中心に新たな活動計画を盛り込めたりした。情報発信では、学校からのホームページによる発信も心がけた。

【学校関係者評価の総評】

学校における教育活動には、「不易」と「流行」があるはずで、今の時代に即した対応等が求められることもあれば、昔からの変わりなく大切に続けなければならないこともある。その見極めをきちんとしながら、子どもに向き合っていくことが必要である。例えば、ICT活用による学びの効果が盛んに叫ばれる世の中だが、やはり「書く」ことによる学びの効果が再注目されている現状もある。今年度、「国語力」の育成を図る校内研究を取り上げており、言語活用能力を育てるところから学力の向上につながる方向は今後も大切にしたい。

経済的、社会的にしんどい家庭が増える中、地域における大人がもっと子どもに声かけし、見守っていく必要がある。地域連携においても、チャッピーコミュニティサークルを始めとして、生徒の主体的な活動が増えることよい。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立野洲中学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	評価に対する意見		
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	B	B	B	8割以上の生徒が、7割近くの保護者が授業について肯定的な回答をしている。IGTの活用や教材の視覚化、授業の振り返りなど、生徒が自らの学びをより実感できる授業改善にさらに努めていく。	昨年度同様、今年度も校内研究主題を「個別最適」とし、副題を「ICTを活用する内容・場面・効果の検討」として、ICT活用での情報収集や意見共有、学びの蓄積により、「個別最適な学び」並びに「協働的な学び」の充実を図り、生徒が手応えを実感できる取組を行った。今後も、生徒が主体的な学びを育む学習場面を設定していくための授業改善に取り組みを促す。また、家庭学習の内容の提示や提案の方法の改善を図るだけでなく、家庭学習がもつ意義について、生徒が一段と深い視点から捉えられるように啓発していく。読書活動においても、生徒会主体の取組を、読書習慣の向上につなげる取組を工夫する。	
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	B	B	B	7割近くの保護者が肯定的な回答をしている一方、生徒は6割程度にとどまっている。宿題の提示方法など重要性について、生徒の意識を変える取組が必要がある。		
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	B	B	B	昨年度に比べ、保護者の肯定的回答が8割を超える結果となった。生徒は朝読書活動の定着が見られる。読書活動の定着に向けて、生徒会による生徒主体の取組で活性化を図って行きたい。		
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、いじめを許さない学校づくりをしている。	B	B	B	8割以上の生徒、8割近くの保護者から肯定的な回答を得た。人権学習の取組が浸透してきた。講演会の案内や生徒会人権の取組など、人権意識がさらに醸成されるよう、今後も取組を継続していく。	人権教育を教育活動の根幹にすえた学校づくりを推進し、生徒の仲間づくりを行っている。様々な人権課題について、あらゆる機会を捉えて学習を深めていく中で、人権意識の向上が図られてきた。今年度も講演会を保護者に案内し、開かれた学びの機会として設定した。今後は保護者・地域と連携した学びの機会を設定する等、人権意識の向上の取組を一層推進していく。行事では生徒が主体的に活動する立派な姿が多く見られた。今後も活動に期待する。	人権教育については、各学年および同和教育・人権教育推進部で検討を重ね、出会いを大切に人権学習を進めてきた。また来年度各学年の人権学習講演会を、「親子人権学習」として、保護者の学びの機会を設定する。あわせて、学校だよりや学年通信や学校ブログなど、人権教育の取組を随時発信し、人権意識の向上の醸成する学校づくりを推進する。また、特別活動や学校・学年行事についても、生徒が主役になるとの視点をもってさらなる活動を進めるとともに、お互いを尊重し、認め合う仲間づくりを期待する。生徒との日々丁寧に関わり、自分の思いを出せる学級や学年づくりに取り組んでいく。
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い・高め合える学級・学年づくりをしている。	B	B	B	8割以上の生徒が安心して過ごせると回答した一方で、思いを出せると回答した生徒は7割にとどまった。生徒が受容されているとの意識高められる関わりについて、再度見直していく。		
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	A	A	A	施設の関係上、参加が制約ある中で、行事開催となったが、9割近い生徒、保護者から肯定的な回答を得られた。今後も生徒が主体的に参画し、主体的に活動できるような機会をさらに増やしていく。		
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	B	B	B	生徒の回答は学年間の差があったが、肯定的な回答は7割を上回った。保護者の肯定的な回答は前年度に比べ5%アップした。今後は生徒のことも受容した、より丁寧な関わりを継続していく。	教育相談では、1・3年の肯定的な回答が多かった一方、2年では5割にとどまった。厳しい指導の取組の反映とも考えられるが、丁寧に取り組んでいることも理解している。苦しみも多いと思うが、きめ細やかな支援をお願いしたい。	真面目に学習や行事等に取り組む、規範意識をもって落ち着いた生活を送っている生徒は多い。一方、生徒は多感で不安定な思春期を送っているため、思いを受け止める機会が充実は大変重要だと考えている。また不登校生徒や別室登校の生徒の増加、難しい家庭背景を抱える生徒も多く、学校が支援できる内容も限られており課題は大きい。今後も、特別支援教育部・教育相談部・生徒指導部の校内組織が互いに情報共有・連携を図りながら、専門職や関係機関との連携をより一層密に取り、チームとして生徒へのきめ細やかな支援を今後も継続していく。また取組を通して、教員の指導力、組織対応力の向上も目指していきたい。
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	B	B	B	保護者の肯定的な回答は、昨年度に比べて5%アップした。昨年度以上に関係機関との連携が密になり、様々なケースの支援をすることができた。今後も、よりよい支援ができるよう取組を継続する。	関係機関との連携強化は評価できる。今後は生徒・保護者とも安心できるセーフティネットとしての役割をお願いしたい。	
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	B	B	B	規範意識の向上については、保護者の肯定的な回答も昨年度に比べ10%高くなった。一方で、登下校の交通マナーに課題が見られた。地域の一人としての自覚を促し、生徒の安全意識をさらに高める。		
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	B	B	B	学校運営協議会や地域学校協働活動推進員の手を借りて地域と連携した活動ができたが、PTAの解散に伴い、保護者の連携の在り方が今後の課題である。保護者の参画機会の設定を検討していく。	学校運営協議会や地域学校協働活動推進員が中心となって、絵本の読み聞かせ活動や、ひまわりプロジェクト三上山登山など、地域と連携した活動ができたことは良かった。今後も継続した取組を行うとともに、保護者の参画機会を模索して、地域にさらに開かれた学校となるような取組を推進することを期待する。	今年度も充実した地域学校協働活動の取組ができた。図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせ活動や、地域団体による3年の保育授業、また助産師による性教育講座、さらには特別支援学級におけるひまわりプロジェクトの取組など、活動内容を教育課程に組み込む試みもできた。今後も取組を継続するとともに、保護者や地域に学校の取組を発信するとともに、参画機会を設定できるよう、学校運営協議会として活動内容を検討していく。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	A	A	A	HPの学校ブログが頻繁にアップして学校の様子を随時発信した。また、保護者配信メールでの学校だよりや学年通信等、積極的に情報発信することができた。今後も情報発信を引き続き行っていく。		
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B	B	多くの教員が時間管理・業務改善を意識して取組を行っている。一方で、事務作業が多い、一部のみに仕事が偏る、業務総量の削減が見込めない等、改善が図られていない面も依然とある。		

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

落ち着いた教育環境の中で、日々の授業をはじめとして、学年や学校の行事での生徒の主体的で熱心な取組や頑張る姿、成長を見ることができた。また、校内研究の推進により、タブレットやICTを活用した授業の機会が増え、生徒が学びの支援と充実を感じられる学習が広がっている。今後は教職員のICT機器の活用技能を高める研修機会を設けていく。さらに、生徒が安心してお互いが認められる、居心地のよい場所となるよう、今後も教員の生徒への支援的な深い視点とアプローチを育成する取組を進めていくことも継続して行っていく。学校の情報発信により、生徒の学校での様子や活動を広く知っていただくことができた一方で、保護者の学校への参画機会や地域の連携の強化をより一層進めていく必要がある。学校運営協議会を軸に、教育活動との関連を鑑みながら、具体的な取組を進めていくこと今後の課題であると考えている。

【学校関係者評価の総評】

学校評価アンケートについては、全項目で昨年度よりも肯定的な回答が上昇した。一方で、回答率の低下が課題である。回答率向上に向けて、工夫した取組が必要がある。あわせて「わからない」との回答が多いことについて、学校からだけでなく、学校運営協議会からの発信も必要だと考えている。地域学校協働活動は、三上山登山や絵本の読み聞かせなど、地域と連携した活動が継続できている。今後は、地域人材の発掘と活用等、連携を強化するとともに、保護者・地域の方々にも子どもの教育について、参画機会を提供していくことが課題である。

令和7年度 学校評価結果報告書

野洲市立野洲北中学校

指標	番号	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				項目 評定	指標 評定	指標 評定	評価に対する意見	
学力向上	①	授業づくり	学力向上にむけ、主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。	A	B	B	授業についていけない、学校に来られない生徒にwebで小单元ごとに分かりやすく、楽しめるような先生の説明動画など観られるようにするのはどうか。わからなかったことも振り返れるし、自習にも使える。読書は学年で取り組み差が出るのはよくない。学校として、取り組みなければいけないと思う。	授業では、学習のねらいを明確にした上で、問いを中心とした展開や話し合い活動を取り入れ、生徒が主体的に考え、表現する場面を充実させる。また、ICTを効果的に活用し、思考の可視化や振り返りにつなげる。家庭学習では、学年に応じた課題例を示し、学習内容の定着と主体的に学ぶ力の育成を図る。読書活動については、朝読書の継続や学校図書館・学級文庫の充実を図り、教科と関連付けた読書を通して読解力や思考力を高めている。これらを相互に結び付けながら、学びが深まる学校づくりを進める。
	②	家庭学習	学習習慣の定着にむけ、家庭学習の計画や方法を助言している。	B				
	③	読書活動	読書活動の時間を設定し、読書習慣が身につくようにしている。	B				
集団づくり	④	人権意識の向上	道徳教育・人権教育の充実を図り、生徒に寄り添った学校づくりをしている。	A	A	A	様々な行事に参加させていいただき、参加するのを楽しめる。行事で先輩の様子から学べるのがよい。体験的な行事は何かするときの種になる。人権学習は、話し合うことでお互いを知り、学びあえる。今後も人権への学びが深まる取り組みを続けてほしい。集団づくりは、いかに組織としてまとまっていけるか、まとめていけるかが大切。学校の様子から雰囲気やよいことは伝わってくる。	人権学習では、互いを尊重する態度を育てることを重視し、日常の学校生活や身近な事例と結び付けた学習を進める。相手の思いを受け止め、どう考え行動するか、考える力をつける。学級活動では、自治的な集団作りを進める。責任感や協働する態度を育成する。学校行事では計画的な取り組みを行い、一人一人が役割をもって主体的に参加できるようにする。行事後の振り返りを通して、達成感や成長を実感させ、日常の学校生活につなげることで、学校全体の教育活動の充実を図っていく。
	⑤	学級・学年活動	生徒一人ひとりが認め合い・高め合える学級・学年づくりをしている。	B				
	⑥	学校行事	生徒が自らの役割を自覚し仲間と協力しながら、心身ともに成長する活動を進めている。	A				
生徒指導	⑦	教育相談	日頃から生徒の思いに耳を傾け、生徒に寄り添った教育相談をしている。	A	A	A	落ち着いた雰囲気、諸活動に取り組んでいると感じる。校内だけでなく、地域でも挨拶してくれる生徒の様子から、指導が行き届いていて素晴らしい。落ち着いた今の小中連携を、子どもや保護者理解を進めていくとよいと感じる。	生徒指導部を軸に3部会、生徒支援(教育相談)・特別支援・生徒指導の担当がそれぞれの視点で生徒の状況を的確に把握して見立てながら、個に応じた支援を向上させ、継続していく。週に1回必ず協議の場を設け、状況把握と共通認識を確認する。さらに、SCやSSW等の専門家や小学校、各種関係機関との連携を密にし、計画的・継続的できめ細かな支援を行う。
	⑧	生活支援	生徒の生活背景等を理解し、関係機関と連携しながら個に応じた支援をしている。	A				
	⑨	社会規範	あいさつや清掃活動を励行し、ルールを守るなど、規範意識を育てている。	A				
連携	⑩	地域連携	保護者や地域と連携し、人材を活用しながら教育を進めている。	A	A	A	計画的にテーマを決めて学校運営協議会を開催していただき、学校の取り組みや生徒の様子がよくわかる。今後は、もう少し踏み込んで地域と連携できる取り組みを実現していきたい。中学生が地域行事にたくさん参加し、交流がある。今後も続けたい。	学校運営協議会と課題を共有しながら、生徒が社会で生きる力を育む。協働体制による地域とともにある学校づくりを推進する。ホームページやtetoruなどの学校通信等を通じて、学校情報を発信し、保護者・地域のニーズに応じた発信ができるよう内容の工夫に努める。
	⑪	情報発信	通信やホームページ等で学校や生徒の様子を伝えている。	A				
働き方改革	⑫	働き方改革	働き方改革を意識し、日々の業務改善や時間の使い方の工夫を心がけている。	B	B	B	部活動の地域展開の在り方など、地域住民で担える部分の協力を検討する。	部活動の地域展開の実証事業への参加や日課表の見直しを行う。テスト採点や評価検討時間の確保など、教員の業務負担や時間の確保に努める。

評価基準 A(十分達成) B(おおむね達成) C(達成不十分) D(大きな課題あり)

【自己評価の総評】

人権学習や教育相談、生活支援、社会規範の取組は安定し、生徒の安心感や規範意識が定着している。学校行事では主体的な参加が見られ、地域連携や情報発信も計画的に進んだ。授業づくりではICT活用や対話的な学びが進み、主体的に考える力の育成に一定の成果がある。一方、家庭学習、読書活動、働き方改革は課題が残る、学習習慣の自律化、読書習慣の定着、意見表出の場の設定、業務負担軽減が求められる。今後は授業改善の深化、家庭学習支援の具体化、読書活動の体系化、働き方改革の推進により、学びの質と学校運営の充実を図る。

【学校関係者評価の総評】

生徒が落ち着いた学習や行事に取り組める良好な環境が整っており、校内外での挨拶やふるまいからも、日常指導の丁寧さと学校文化の安定が感じられる。行事や体験活動では、生徒が主体的に参加し、先輩の姿から学ぶよきも見られ、人間関係の育ちに大きく寄与している。また、人権学習では対話を通して互いを理解し合う姿が定着しつつあり、今後のさらなる充実も期待できる。学習面では、つまづきのある生徒へのICTを活用した学習保障の強化や、読書活動の取り組みに差が出ないような全校的な方針づくりが課題である。地域とのつながりも良好で、生徒が地域行事に積極的に参加していることは大きな強みである。学校運営協議会も機能しており、今後も地域と協働を進めるとともに、部活動の地域展開に向けた協力体制の検討が求められる。

(様式1)

野教委学第110-1号
令和8年(2026年)4月10日

滋賀県教育委員会教育長 様

野洲市教育委員会教育長 北脇 泰久

報告事項④

令和8年度 小学校児童数、学級数について(令和8年4月10日実数)

このことについて、下記のとおり報告します。

記

学校名	調査事項 区分	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	特別支援学級							計	要 準 児 童	数 割 合	統 合 前 の	学 校 名
								チ	肢	キ	ビ	視	言	ナ					
中 主 小	児童数	77 (チ4ジ2)	93 (チ4ジ3)	105 (チ5ジ3)	73 (チ4ジ3)	103 (チ6ジ4)	79 (チ7肢1ジ3)	30	1						18	579	人	%	
	実学級数	3	3	3	3	3	3	4	1						3	26			
	標準学級数	3	3	3	3	3	3	4	1						3	26			
篠 原 小	児童数	23 (ジ1)	30 (チ1)	25	21 (チ2)	28 (チ1ジ1)	25 (チ1)	5							2	159	人	%	
	実学級数	1	1	1	1	1	1	1							1	8			
	標準学級数	1	1	1	1	1	1	1							1	8			
祇 王 小	児童数	48 (チ2ジ4)	60 (チ5ジ3)	46 (チ4ジ2)	67 (チ3ジ2)	62 (チ4ジ5)	83 (チ4肢1ジ5)	22	1						22	411	人	%	
	実学級数	2	2	2	2	2	3	3	1						3	20			
	標準学級数	2	2	2	2	2	3	3	1						3	20			
三 上 小	児童数	29 (ジ1)	31 (ジ2)	30	20 (チ1ジ4)	33 (チ3)	30 (チ2)	6							7	186	人	%	
	実学級数	1	1	1	1	1	1	1							1	8			
	標準学級数	1	1	1	1	1	1	1							1	8			
野 洲 小	児童数	89 (チ3ジ3)	101 (チ6ジ4)	90 (チ2ジ6)	81 (チ6ジ5)	109 (チ8ジ8)	97 (チ4ジ5)	29							31	627	人	%	
	実学級数	3	3	3	3	4	3	4							4	27			
	標準学級数	3	3	3	3	4	3	4							4	27			
北 野 小	児童数	105 (チ1ジ3)	110 (チ1ジ2)	102 (チ2ジ4)	121 (チ3チ1ジ11)	117 (チ1ジ8)	113 (チ1ジ7)	9						1	35	713	人	%	
	実学級数	3	4	3	4	4	4	2						1	5	30			
	標準学級数	3	4	3	4	4	4	2						1	5	30			
合 計	児童数	371	425	398	383	452	427	101	2					1	115	2675	人	%	
	実学級数	13	14	13	14	15	15	15	2					1	17	119			
	標準学級数	13	14	13	14	15	15	15	2					1	17	119			

(注) ()内には、特別支援学級の児童数を外数で記入すること。

滋賀県教育委員会教育長 様

野洲市教育委員会教育長 北脇 泰久

令和8年度 中学校生徒数、学級数について(令和8年4月10日実数)

このことについて、下記のとおり報告します。

記

学校名	調査事項 区分	1 学 年	2 学 年	3 学 年	特別支援学級								計	数 要 割 合 生 徒	統 合 前 の 学 校 名		
					手	肢	キ	ビ	視	言	ナ	ジ					
中 主 中	生徒数	91 (手5ジ6)	87 (手5ジ4)	97 (手2ジ3)	12							13	300	人			
	県実学級数	3	3	3	2							2	13			%	
	標準学級数	3	3	3	2							2	13				
野 洲 中	生徒数	140 (手7ジ7)	141 (手6ジ18)	144 (手4肢1ジ7)	17	1						32	475	人			
	県実学級数	4	5	5	2	1						5	22			%	
	標準学級数	4	4	4	2	1						5	20				
野 洲 北 中	生徒数	182 (手5ジ3)	195 (手3ジ3)	174 (手9ジ8)	17							14	582	人			
	県実学級数	6	6	5	3							2	22			%	
	標準学級数	6	5	5	3							2	21				
合 計	生徒数	413	423	415	46	1	0	0	0	0	0	59	1,357	人			
	実学級数	13	14	13	7	1	0	0	0	0	0	9	57			%	
	標準学級数	13	12	12	7	1	0	0	0	0	0	9	54				

(注) ()内には、特別支援学級の生徒数を外数で記入すること。

令和7年度 市内小・中学校寄付採納一覧

報告事項⑤

年 月	寄贈者（敬称略）	内 容	寄 贈 先
令和7年5月	石上 三雄	書籍「びわ湖のプランクトン フォト&ムービー」計9冊	市内小・中学校
令和7年5月	レーク滋賀農業協同組合	食農教育雑誌「ちゃぐりん8月号」	市内小学校
令和7年5月	多聞寺内 三上仏教会 兼岩 龍彦	児童図書 3万円分	三上小学校
令和7年5月	株式会社滋賀レイクスターズ（寄贈企画者） 株式会社東海電工（支援者）	バスケットボール（計18球）	市内小学校
令和7年6月	岡部 修一	・書籍「今、解き明かす理系の書道家が解明した2対3対5黄金比書道 入門編（奥義総括書）」 ・書籍「今、解き明かす理系の書道家が解明した2対3対5黄金比書道 実践・応用編」各11冊	市内小・中学校 野洲図書館 教育委員会
令和7年7月	野洲地区更生保護女性会	図書（計72冊）	市内小・中学校
令和7年7月	高野 義大	外国製切手 一式	祇王小学校
令和7年9月	サムタイムズ代表 橘 円	楽器スタンド（ウィンドチャイム用）1台	北野小学校
令和7年12月	萩原 玉子	児童図書 20冊	篠原小学校
令和7年12月	松山 武	①大型姿見（鏡台） 1台 ②木製3段回転本棚 1台	①野洲小学校 ②祇王小学校
令和7年12月	滋賀県遊技業協同組合湖南支部	図書（小学校各校に28種類） （中学校各校に33種類）	市内小・中学校
令和7年12月	中主学区青少年育成会議	①横断幕 1枚 ②デジタルカメラ 4個 パーティションホワイトボード 2台	①中主小学校 ②中主中学校
令和8年2月	野洲市PTA連絡協議会	児童生徒用図書 208組	市内小・中学校
令和8年2月	株式会社滋賀レイクスターズ（寄贈企画者） 平田機工株式会社（支援者）	バスケットボール（計36球）	市内小・中学校
令和8年3月	レーク滋賀農業協同組合	補助教材本「農業とわたしたちの暮らし」	市内小学校
令和8年3月	三上学区人権啓発推進協議会	車いす 1台	三上小学校

令和7年度 幼稚園 寄付採納一覧

年 月	寄贈者（敬称略）	内容	寄贈先
令和7年5月	北野学区民生委員児童委員協議会	紙芝居舞台 1台	北野幼稚園
令和7年7月	北野学区人権啓発推進協議会	絵本「へいわとせんそう」 1冊	北野幼稚園
令和7年11月	祇王幼稚園元園長有志	実物投影機 1台	祇王幼稚園
令和7年10～11月	滋賀県民共済株式会社県民サービス	絵本 「からすのパンやさん」 「マトリョーシカちゃん」 「ちいさいおうち」 各4冊	中主幼稚園 野洲幼稚園 祇王幼稚園 北野幼稚園
令和8年2月	野洲市PTA連絡協議会	絵本 62組	市内幼稚園
令和8年2月	令和7年度 中主幼稚園PTA	デジタルピアノ 1台 ミーティングボード 9台	中主幼稚園
令和8年2月	令和7年度 野洲幼稚園PTA	一輪車 3台 ヘルメット 3つ	野洲幼稚園
令和8年2月	令和7年度 祇王幼稚園PTA	紙芝居 5セット 大型紙芝居整理棚 1台 紅白玉入れ（2台1セット） 1セット 玉入れ用玉（赤） ベルマークより 1セット	祇王幼稚園
令和8年2月	令和7年度 北野幼稚園PTA	スピーカー 1台 メタルシェルフ 2台 コンパクト台車 1台 体操リング60cm 1セット 図鑑 4冊	北野幼稚園

保育園（所）・幼稚園・こどもの家等の入園・入所状況等（令和8年4月1日現在）及び
野洲市三方よし人材バンク等の実績（令和7年度）について

令和8年4月1日現在の保育園・幼稚園・こどもの家等の入園・入所状況について、以下のとおり報告します。

1. 保育園（所）・こども園（保育園部）・小規模保育園 ※対象：0歳から5歳児

項目	定員	希望者数	入所園児数	入所園児 ／定員	入所園児 ／希望者	待機児童数	
						総数	うち国基準
令和8年度	1,211人	1,242人	1,153人	95.2%	92.8%	89人	5人
前年度	1,186人	1,299人	1,179人	99.4%	90.7%	120人	23人
増減	25人	▲57人	▲26人			▲31人	▲18人

2. 幼稚園・こども園（幼稚園部） ※対象：3歳から5歳児

項目	定員	希望者数	入園園児数	入園園児 ／定員	入園園児 ／希望者	待機児童数
令和8年度	610人	482人	482人	79.0%	100.0%	0人
前年度	1,265人	485人	485人	38.3%	100.0%	0人
増減	▲655人	▲3人	▲3人			0人

3. こどもの家 ※対象：小学校1年生から6年生

項目	定員	希望者数	入所児童数	入所児童 ／定員	入所児童 ／希望者	待機児童数
令和8年度	1,175人	1,272人	1,272人 (通年970人) (季節302人)	108.3%	100.0%	0人
前年度	1,275人	1,263人	1,263人 (通年973人) (季節290人)	99.1%	100.0%	0人
増減	▲100人	9人	9人 (通年▲3人) (季節12人)			0人

上記のとおり、保育園（所）・こども園（保育園部）・小規模保育園における国基準の待機児童数が5人となっており、前年度と比較すると18人減っています。主な要因は、野洲第三保育園の閉園に伴う職員配置と、保育士の派遣委託を行ったことによる保育士確保が挙げられます。

4. 野洲市三方よし人材バンクによる採用実績（令和7年度）

保育士	幼稚園教諭	学童指導員	保健師	看護師	その他	合計	前年度
13人	7人	0人	0人	2人	8人	30人	58人

5. 保育士確保に係る事業実績（令和7年度）

野洲市保育士等保育料補助事業	野洲市保育士宿舍借上げ支援事業	野洲市保育士等奨学金返還支援事業	野洲市新規採用保育士等就職定着給付金
12件	6件	3件	5件

令和7年度 第3回野洲市社会教育委員会議

日付	令和8年3月17日(火)
時間	14時00分～16時00分
場所	人権センター1階 多目的室
参加者	【出席】佐敷恵威子、小澤郁乃、鷺田新介、上田智子、西川典子、富田由紀子、山口孝志(委員7名)【欠席】板倉 祥浩、松本淳子(委員2名) 北脇教育長、川崎次長、羽田文化スポーツ振興課長、大岡歴史民俗博物館長 生涯学習課：井狩課長、蜂屋参事、谷(事務局7名)

概要

【1. 開会】

・本会議は議事録作成のため録音・写真撮影を行い、公開とする。

【2. 教育長あいさつ】

・教育長あいさつ

令和7年度の生涯学習・社会教育の取組を振り返ると、学校司書を1名配置することができ、児童生徒が図書に触れ読書に親しむための機会づくりや図書室の環境整備が着実に進展した年であったと感じている。

令和8年度野洲市社会教育関係団体活動補助金の交付について、社会教育法第13条の規定に基づき委員の皆さまから意見を伺いたい。

情報共有では「冬の地域・学校での取り組み」ということで野洲市内の子どもたちが地域や学校でどのように過ごしているのか伺えることを楽しみにしている。

【3. 議事】

(1) 令和8年度野洲市社会教育関係団体活動補助金の交付について

〔事務局〕

・「令和8年度社会教育関係団体補助金交付予定一覧」「令和8年度社会教育関係団体補助金交付予定一覧関連資料」に基づいて、令和8年度社会教育関係団体活動補助金交付予定について説明。

〔各委員意見〕

・PTAやエルダー婦人会は会員数減少や解散しているが、補助金の金額はこのままでいいのか。繰越金の方が補助金よりも大きいので、そのあたりもちょっと気になると思った。

→〔事務局〕市内小学校中学校合わせて9校のうち、5校がPTAを解散している。9校のときは10万円の補助をしていたが、4校に減ったところで事業内容の精査を行い5万円に減額した。活動を続けている4校について今後、精査していきたい。

エルダー婦人会について、活動の中身は収支決算書で見える限り定期的な団体の会議、活動などをされている。ご指摘の通り繰越金の方が補助金より少し多いが、会員数が少ない中でも意欲を持って活動されていると認識している。

今後、活動がなされないような状況になれば、団体と話をし補助金額が必要か聞き取っていく。

→事業報告書を提出いただく時に、例えば総会に何人出席したかなどがわかるものを示してほしい。

→【事務局】承知した。

・各学区青少年育成市民会議の決算書について、支出項目の書き方が少しずつ異なる。項目を統一して、備考に内容を書くなどしてはどうか。

→【事務局】学区ごとに取り組み内容が異なってくる。自己資金やレクリエーション時の費用などを収入として組み込んで計上している学区もある。あくまで補助金を事業の中で適正に執行されているかというところを見ている。

→項目を揃え備考にどこから拠出しているなど内容を書くように統一してほしい。

→【事務局】補助金 68,700 円の収支がわかるものになるよう、変更していく。

・野洲文化協会、野洲市音楽のあるまちづくり実行委員会は、市内の文化施設が改修等の関係で会場の都合がつかず市外で活動する場合がある。その場合も補助金は継続されるのか。

→【文化スポーツ振興課長】文化協会は市内文化施設等で活動されているが、文化ホールは休館中でさざなみホールは閉館となった。文化協会の主たる活動事業である文化芸術祭は、本年より、11月の土曜日、日曜日の2日間にわたり各関連団体の発表の場として小劇場で開催した。

小劇場は来年度以降、令和8年度、令和9年度は運営していく方向である。そのため、文化協会の活動は小劇場で開催ができると認識している。引き続き文化協会の事業展開を補助する形で8・9年度の補助金は続ける予定である。

音楽のあるまち作り実行委員会は、図書館ホールで月1回コンサート等を開催されている。継続していきたい。

【4. 情報交換】「冬の地域・学校での取り組み」について

資料3に基づき、委員間で情報共有。

○「粥占い」とげん kids 応援隊

公民館で「粥占い」をやっていたがコロナ以降なくなった。家を改修したところが当番になるなどあった。それがない場合は順番が回ってきて、今年うちの当番だと言いながらやっていた。そういったことを知っている人も減っている。左義長は存続している。玄関先に置いた藁を子どもたちが持って行って天神社の広い溝で組んで、習字などを燃やす。

大学でげん kids 応援隊という学生主催の応援隊がある。橘大学は地域にいる学校ということで子どもたちと学生、観修おやじの会と一緒に子ども食堂やクリスマス会など年4回行事を実施。学生は子どもたちと関わる勉強させてもらい、子どもたちは大学生と色々な遊びをしている。学生なりに一生懸命遊びのブースを作ったり、ビンゴ大会をしたり、毎回工夫を凝らしている。そのことが将来力にもなってくる。

○地域コミュニティの大切さ

地域の読み聞かせは社協を通してご依頼いただいている。その中で高齢者サロンに92歳の方がきてくださった。地域の繋がりの方に関わらせてもらうということに私自身が学びをもらっている。その方は銅鐸博物館でいろんな活動をしていたことや、どうやって銅鐸博物館ができたのかという話を

してくださった。話を聞いてそれを誰かに伝えたくなくなった。この循環が地域コミュニティの良さであり、改めて地域コミュニティは大事なんだと感じた。場を作ってくくださる民生児童委員・地域ボランティアの方々の活動力にも、学びを受けたり気づきをもらったりしている。人が集まる場は大事だがコロナ以降、色々な場がなくなっているのが復活してほしい。

○中主学区次年度の取り組み

中主学区は幼小中の連携が取りやすい学区である。12月21日に北部合同庁舎でチェッピーフェアを開催。地域の方々、先生、子どもたちと交流した。

読書活動を少しずつ進めていきたい。3年前に中学校で俳句をかなり作っており、その俳句が某お茶のパッケージに掲載され文部科学大臣賞を受けた。その後続かなかつたため、読書活動を頑張ってもらいたい。小学校では昼休みに読書をする昼読をされている。子どもたちの読書を頑張っているという肯定的評価は高いが、二極化しているところがある。読書月間を設けて進めていく予定。

○社会福祉協議会の取り組みと中学生のパワー

社協では各中学校圏域単位で地域のまち作りを考える話し合いの場を定期的に設けている。

みんなまち（みんなでまち作りの略）を年4回開催しており、第2回は夏休み期間に開催した。地域の大人と中学生が語り合う素敵な化学反応が起こっている。

より顔の見える関係作りをしていくため、今年度はサッカー部・野球部のメンバーと野洲北中学校のフェンスのツタ刈りを一緒に行った。今後、全体に繋がっていくことを目指しみんなまちメンバーと模索しているところである。地域では担い手不足、世代を超えた繋がりの薄さが、どこの地域でも課題として挙がる中で、みんなまちで話をしてくれる中学生の意見を色々な人にも聞いてもらいたい。こじんまりとしたお喋り会のようなものを小さな単位でやっていきたい。

○将来の目標

CS 合同研修会で初めて知ったことがたくさんあった。合同研修会が必要だと思った。

野洲小学校コミュニティ・スクールで学校運営協議会のメンバーと地域の昔の話を聞きながら、通学路の危険地域の確認を歩いて行った。実際に歩いて回ることの大切さを感じた。

12月に図書館で開催されたイベントで早田館長から読書を増やしていく取り組みとして野洲駅の貸出BOXの設置など話を聞いた。

今年度地域の組長をしている。年度末を迎え少しほっとしている。コロナ以降状況が大きく変わり、色々なくなり「楽でいいね」となっているが、コミュニティの大切さを感じるころもある。

今後、少しでも運動会など地域のことができたらいいなと思う。「いずれは自治会長になりたい」と言っているが、地域の皆さんのためにと動いている姿を見ると、すごくいいものだなと思う。

○絵本を通じた交流

絵本読み語りの会トッポンチーノ主催で「大人のためのピアノと絵本のコンサート」「小さなアートフェスティバル」を開催。

1月31日に「パパ友の会」開催。パパを対象にして子どもを連れてきてもらった「おとうさんはウルトラマンを」読んだときに涙ぐんでいる人もいた。

音楽、絵本の読み語り、演劇など様々な分野でいろいろな人を対象に実施した。今年良かったこと

は演劇では小学生の演者さんに出てもらい手作りの演劇ができたことである。世代交流の拠点としてホビーハウスにおける当団体の参加は、「子ども向け」「大人向け」と内容の精選は必要であるが、絵本や紙芝居の根幹にある、同じ場を共有して共に楽しむことを大切にできた時間であった。

野洲幼稚園学校運営協議会としては子どもと一緒に遊ぶ活動も多く入れていきたいと思っている。野洲幼稚園が民営化する方針のため学校運協の活動は実際できないことになる。これから学校運協が目指すところをどういう形で継承していくのか3年間で考え、足跡を残しながら繋いでいきたいと考えている。

○中学生と地域の関り

篠原学区の文化祭で吹奏楽部の演奏、美術部作品展示をした。

吹奏楽部は秋から準備をしている。コミセンがしっかり打合せをしてくださり楽器の搬出についても協力いただいている。たくさんの方にきていただき、地域の方からの期待を感じる。

2年生は北野の人権推進協議会とコラボして愛東にある滋賀県立平和祈念館から講師をお招きし平和学習を実施した。20名以上の地域の方にきていただけた。春になれば地域のお祭りへの参加などがあると思う。生徒たちは喜んで参加しているので、できれば自治会長会議に行き地域に生徒たちを呼んでいただけないか宣伝していきたい。

3/28(土)PM野洲北中学校吹奏楽部スプリングコンサート開催。

【感想等】

・コミュニティ・スクールが始まる時「子どもの主体性を育むこと」を大事にするという話があったことを思い出した。地域のことを子どもたちが自分で考える、地域の行事に参加して地域を感じる事が、改めて大事だと気づいた。

・失敗もあるという部分も含め、全てが学び。大人は子どもがなにかするときにごく心配でヒヤヒヤしながら見ているが、全てが経験であって子どもたちには物事をやってのける力があり成長になる。

・経験則だが、教員採用試験対策で「滋賀の子は地域の方と密接に関わりあっているので滋賀の教員になりたい」という学生が多い。きっかけを聞くと地域の人との日々のあいさつでの関りや中学の職場体験などである。各地域での取り組みの結果だなと思う。

【5.その他】

〔歴史民俗博物館〕令和8年1月X(フォロワー数133人)、Instagram(フォロワー数258人)開設。来館を促すこと、来館できない人にも知識を届けることを目的としている。学芸員が持っている情報を親近感をもってもらえる内容にして情報発信を行っている。

〔事務局〕第68回全国社会教育研究大会(兼近畿大会)大阪大会。令和8年10月29日と10月30日

【閉会】

令和7年度 第3回野洲市図書館協議会 会議録(概要)

◎開催日時 令和8年(2026年)3月21日(土)午後1時30分～午後3時30分

◎開催場所 野洲図書館本館 会議室

◎出席者 図書館協議会委員6名、事務局2名(図書館長、係長)

※委員4名欠席(傍聴者なし)

1. 議事

(1) 月毎貸出状況について(令和7年度推計)

・貸出冊数も人数も前年より数字上は伸びているが、昨年11月に一ヶ月の休館があつての数字となるので、決して芳しくはない状況である。長期的には減少傾向が続いている。要因としては、新刊の入荷が以前と比べ少ないこと、もちろんライフスタイルの変化等考えられる。既存資料の特集展示等の努力だけでは難しい。夏場でも、貸出者数は増えたが貸出冊数は減少。夏場は涼みにきている人も多いが、気候がよくなると来館は減る傾向。(正確な年度統計は、来年度第1回目に報告する。)

◎委員の主な意見、質問

- ・1回に借りる冊数が減少している
(令和元年は4.27冊、令和6年は3.98冊、令和7年は3.86冊)
- ・一人3.8冊は、やはり貸出一人当たりの冊数としては少ない。通常5冊程度に収斂していく。
- ・来館して思うが、(フロアにいる)人が明らかに減ってきている。
- ・開架の約13万冊を年6000冊の新刊で入れ替えるとすると、20年くらいでやっと全体を更新できる。東京のあるところでは、7年くらいで全て入れ替わっていると聞いた。
- ・(蔵書の)真新しさが無いというのは、利用数に影響している

(2) 令和8年度事業方針について

- ・基本業務は変わらず。
- ・新規事業として、移動図書館車の導入準備業務(後述)と図書館システムの更新がある。
- ・図書館システムは、おうみ自治体クラウド協議会による共同調達により実施。現行システムの新バージョンへとリプレイスすることが決まった。大きな機能的な変化はないが、LINEを活用し検索機能やお知らせ通知など利用者の利便性を向上させる方向で進めている。
- ・学校司書が1名増員されることとなったが、全校に配置されない状況であるので、引き続き図書館が学校への支援を積極的に行う。

◎委員の主な意見、質問

- ・今の図書館システムの機能について、検索など使いにくい面がある。改善要望は言ってもよいのか
- >(事務局)承る。利用者要望としてシステム会社に伝える。

- ・駅の返却用ブックポストについて、挿入口にビニールがついているのはなぜか。
- >(事務局)ゴミを投棄されることが続いたためである
- ・中学生や小学生の図書館見学はあるか
- >(事務局)小学校2校と野洲養護学校。中学校の職場体験も受け入れている。

(3)「野洲市どこでも図書館事業」(移動図書館)について

- ・政策提案型事業に採択された。市長の施政方針に沿う形で、来館が難しい子どもや高齢者をターゲットに、移動図書館を走らせる。
- ・R8年度は車両調達や巡回ルートの設定等の準備の年となり、R9年からの本格稼働を目指す。
- ・ステーションの設定については、様々要望があると思われるため慎重に進めたい。

◎委員の主な意見、質問

- ・予算は「まちづくり基金」からとなるのか
- >(事務局)車両代については、自治総合センターの「コミュニティ助成事業」にエントリーしているので、それが採用されればそちらから 560 万くらいの費用が出る。その他費用は「まちづくり基金」が当てられる。
- ・本は移動図書館専用として購入するのか。予約本は受け取れるのか。
- >(事務局)なるべく新鮮な本をもっていきたいので、人気のある本を持っていけるよう運用は考えたい。予約までできるかは今後の検討となる。
- ・広告などをつけ、本題を企業に賄ってもらうなど工夫できたらよい
- ・楽しいラッピングを期待している。

(4)その他

- ・「令和8年第2回野洲市議会定例会」代表質問等の概要を口頭説明。

◎委員の主な意見、質問

- ・学校の「図書館ボックス」の更新について、学校司書のこともあり、どのような方向性になるか。
- >(事務局)更新は必要だが、予算が十分でない。とくに中学校用の更新が必要。
- ・学校図書館の有効的な活用が必要。今後も前向きに進んでいくよう、またこの(協議会の)場に教育委員会の方も交えて、図書館と学校とが連携していくことで活字に触れる機会を増やすよう考えていってほしい。小学校はだいぶ開放されているが、中学校は通常は閉まっている
- ・学校図書館と公立図書館がシステムのつながっていないことも課題

2.閉会

以上

令和7年度 ふれあい教育相談センター事業実績報告

1. こころの教育相談

(事業概要)

不登校やいじめなどの悩みを持つ子どもやその保護者に対し、2人のカウンセラーによる教育相談を週5日(月～金、10:00～17:00)行っている。不安や悩みの解決に向けて支援をする。

(1) 内容

面談および電話による教育相談

(2) 運営実績

① 年次別のべ相談件数(電話相談を含む)

年度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
件数(件)	523	531	561	605	432	338	467	1,169	1,201

② 令和7年度相談形態別件数

相談形態別 件数(件)	面接相談	1,131	1,201
	電話相談	70	

③ 相談者区分の人数

相談人数 (人)	校種	児童生徒	保護者	合計
	小学生	24	46	70
	中学生	13	15	28
	合計	37	61	98

④ 相談内容区分

区 分	令和6年度(件)	令和7年度(件)
いじめ	30	5
不登校	997	1,081
いじめを除く友人関係	32	4
教職員との関係	11	0
学業・進路	3	5
家庭	96	106

⑤ 学校・関係機関との連携

	令和6年度(回)	令和7年度(回)
ケース会議	12	11
学校との情報共有 (カウンセラー担当分)	23	137
関係機関との情報共有	5	5

⑥ 相談の状況(面談・電話相談)

・終結 30件 ・継続 68件 ・休止 0件

- ⑦ 資質向上研修
スーパーバイズ研修 …… 年間2回（7/18、12/5）
講師：こころの臨床オフィスれんげ 福永友佳子氏（臨床心理士）

- ⑧ カウンセラー会議
担当ケースの共有や面談頻度の検討等。年間を通して随時実施。

（3）成果と課題

（成果）

- ・令和7年度は、カウンセラー1名が週5日勤務に拡充されたことで、令和6年度と比べて相談枠が拡充され、多くの相談に対応できるようになった。
- ・ふれあい教育相談センター内だけでなく、学校やその他の関係機関との連携及びケース会議への参加といった他機関連携の件数が大きく増加した。
- ・学校と児童生徒・保護者の間に入ることで、両者の行き違いを緩和し、関係改善や適切な環境調整に繋がったケースが増加した。
- ・中学校を卒業する生徒とその保護者に対して、支援の終了にあたり、進学先や他相談機関へ連絡を取るなど丁寧な引継ぎを行うことで、支援の輪を切らさないようにした。
- ・支援の初めとして、こころの教育相談において、児童生徒・保護者の気持ちや考え、状況の整理を行うことで、ふれあい教育相談センターの他事業へ適切につなぐことが出来た。
- ・相談ニーズの増加に伴い、令和8年度からカウンセラー2人共に週5日勤務に拡充することができた。カウンセリング枠を拡充すると共に、学校や関係機関との密な連携及びケース会議の時間を確保していく必要がある。

（課題）

- ・不登校にかかる相談ニーズは増加し続けており、さらなる相談枠の拡充が必要である。
- ・他機関連携を行うための枠が足りず、時間を捻出して行っている状況があり、他機関連携のニーズにどのように応えるか、検討が必要である。
- ・全国的に不登校件数が増えてきており、背景が複雑化している状況で、野洲市も同じ状況に置かれている。複雑化、重症化している相談に応えるため、カウンセラーの研修やスーパーバイズの機会を確保し、より適切な支援を目指すことが必要である。
- ・カウンセラー二人による同時間帯での相談が増加しているが、備品や消耗品は旧来の1部屋分で補っている。令和6年度から相談者の増加が著しく、備品や消耗品の損傷が激しいため、どのように充実していくかを考えていく必要がある。

2. 教育支援ルーム「ドリーム」

(事業概要)

学校に行けない、行きにくい児童生徒に学校以外の教室を設ける。少人数グループによる指導を中心として、児童生徒が安心して、心の居場所となるようきめ細かな指導を進める。学習活動や人との関わり、体験活動を通して、たくましい心の育ちを支援する。

(1) 内容

①学習指導、学習支援

- ・自学年の学習内容の自主学習、分からない内容等の学習支援
- ・学校の学習だけに留まらず、興味のある分野に対する探究的活動
- ・学校の先生方の力を借り、ノコギリを使った木材工作、版画の制作等

②体験活動

- (栽培・料理) 野菜栽培 : 玉ねぎ、スナップエンドウ、大根、にんじん、じゃがいも等
料理 : 焼かないチーズケーキ、果汁グミ、お弁当、食パンキッシュ
さつまいもご飯、お芋のモンブラン、ポテトサラダツリー、
米粉クッキー、ライスペーパーコロッケ等
- (芸術・制作) 陶芸教室、図書館、ギター、カリンバ、木琴、エレクトーン、ハンドベル演奏
佐川美術館、MIHO ミュージアム
- (社会・歴史) ほたるの森資料館、しがモック、甲賀忍術屋敷、甲賀流リアル資料館、
京都新聞社
- (健康・スポーツ) 人権センター体育館、なかよし交流館でバスケットボール、バドミントン、
大玉ころがし、玉入れ、体幹遊具運動、スノーズレン
- (交流事業) ホールの子(びわこホール)・湖南4市交流会(守山市:ボッチャ、砂絵作り)
(外部講師指導教室) サッカー指導と海洋プラスチックサッカーボール作り教室(村田和哉氏)
滋賀県立高等専門学校準備室によるプログラミング教室
歌唱指導教室(元野洲中学校長 高野真知子先生)

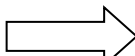
③相談事業 期末懇談、随時相談

(2) 運営実績

①通所児童生徒

令和7年3月				令和8年3月			
	男子	女子	計		男子	女子	計
小学生	2	6	8	小学生	1	7	8
中学生	8	7	15	中学生	8	9	17
計	10	13	23	計	9	16	25

②通所状況(出席のべ人数/開所日)

<令和6年度 1,507人 / 189日>  <令和7年度 1,025人 / 184日>

③保護者・学校・関係機関との連携回数

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
保護者面談・懇談会	34	42	37
ケース会議	17	10	16
学校訪問（指導員）	12	10	13
学校からの来所	44	80	50

④指導員研修（指導員・メンタルフレンドの資質向上）

- ・スーパーバイズ研修 …… 年間2回実施
講師：滋賀大学教育学部 芦谷道子教授（9/17）
こころの臨床オフィスれんげ 福永友佳子氏（2/16）

(3) 成果と課題

(成果)

- ・学校に行かずドリームに通所している児童生徒や学校とドリームを併用している児童生徒など、それぞれが自分のペースで通所していた。
- ・異年齢小集団でさまざまな体験活動を行い、日々の学習や活動の中での助け合い、目標の達成などを通して互いに理解を深めていった。時には気持ちのぶつかり合いも生じたが、それをより良い人間関係構築の学びの場とすることができた。
- ・各校から先生方が来所し、センターに通所している子どもたちと授業やお話し、遊びなど、忙しい中でも様々な協力をしていただいた。来訪が重なる度に、先生方との親密さが深まっていく様子が見られた。
- ・野菜の栽培や調理実習、陶芸教室、体育館活動、図書館活動、公共機関や市のバスに乗っての館外学習など児童生徒は様々な体験を積むことができた。
- ・ドリームに通所する中学3年生4人全員が通信制高等学校へ、小学6年生1名が県内私立中学校への進学を決定した。
- ・実際のケースをもとにした専門家によるSV（スーパーバイズ）研修を年間2回実施した。講師から詳しく指導・助言をもらい、具体的な指導・支援の場においての子どもへの見方、関わり方等について考えることができた。

(課題)

- ・保護者の思いに寄り添いながらも、子どもに負担がかからないように支援を行うことの難しさを感じる場面が何度か見られた。
- ・次年度はSV（スーパーバイズ）研修の機会に学校などの関係機関を招き、SV研修の効果をより高めていくことを検討する。
- ・文部科学省の基準では、「通所者10人に対し、指導者2人が望ましい」とされている。全国的に不登校児童生徒数が増加する中、通所者や出席者数が今後も更に増加するようであれば、指導員の拡充を検討していく必要がある。

3. 訪問型教育支援「ウィッシュ」（旧家庭訪問型学習支援）

（事業概要）

学校に行けない、または行きにくい深刻な不登校状態の児童、生徒及びその保護者を対象に、当該児童、生徒が社会的に自立する力をつけるために支援を行う。当該児童生徒の家庭や公共施設を主な支援場所として、学習支援・生活支援・家庭支援を行う。

（1）内容

①学習指導

- ・受験に向けた学習
- ・分からないところの学習

②体験活動

- ・知的玩具、カードゲームなど

③相談事業 随時相談、カウンセラーによる面談

（2）運営実績

①支援児童生徒

令和6年度末（人）				令和7年度末（人）				
	男子	女子	計		男子	女子	計	
小学生	5	0	5	➡	小学生	4	5	9
中学生	2	3	5		中学生	1	3	4
計	7	3	10		計	5	8	13

②支援場所

令和6年度（のべ人数）：自宅0人、学校 SSR 2人、ふれ相 8人、北部合同庁舎会議室 1人
 令和7年度（のべ人数）：自宅4人、ふれ相 10人

③支援状況

本人支援のべ回数 170回 <令和6年度 167回>
 保護者面談のべ回数 6回 <令和6年度 7回>

④学校・関係機関との連携

	令和6年度	令和7年度
ケース会議	7	5
学校訪問	37	1

⑤指導員研修（指導員の資質向上）

* スーパーバイズ研修・・・令和7年度も訪問教育指導員の出勤日に研修日を設定したため、参加することができた。

(3) 成果と課題

(成果)

- ・昨年度、今年度と「こころの教育相談」から「ウイッシュ」に繋がったケースがあり、情報共有しながら子どもと指導員との関わりを深めることができた。
- ・「ウイッシュ」でエネルギーを蓄えたり保護者のしんどさを軽減したりすることで、登校に繋がっていった子どもが見られた。
- ・「ウイッシュ」に通室することで指導員と関係を結んだり、「ドリーム」に通室してきている同世代の子どもたちと交流したりすることで、少しずつ自己開示できた子どもが見られた。
- ・家族以外の人との関わりをほとんどもてないケースにおいて、指導員が家庭訪問をすることにより、子どもが安心できる環境で指導員と関わることができた。

(課題)

- ・年度初めの保護者や学校の前向きな姿勢についていけない子どもも見られ、当初は支援につながりにくいことが多かった。
- ・近年は学校現場でも「ウイッシュ」の役割への認識が進んできたが、継続した支援へとつながらないケースが見られた。学校との連携を深めると共に、学校現場への「アセスメントやプランニングの研修」についても折を見て進めていく必要がある。

4. その他

- ・県や国の補助金を活用し、フリースクール利用者への助成金制度の創設や、令和8年度よりカウンセラー2名による週5日の相談体制を確立するなど、不登校支援を進めることができた。
- ・「不登校の保護者の会」を初めて開催し、「こころの教育相談」以外にも不登校に悩む保護者に対して支援をすることができた。
- ・市内の小中学校2校と共に県のSSR（校内教育支援センター）研究プロジェクトに参加・協力することで、市内の全小中学校にSSRの好事例を紹介することができた。
- ・市内中学校で「不登校児童生徒への学習評価に関する研修」を行うと共に、市の初任者研修で「アセスメントとプランニングに関する研修」を行うなど、学校現場への支援を行った。
- ・「一人一台端末を活用した心の健康観察」に関するシステムや好事例などを研究し、市内中学校での導入に向けた準備を進めることができた。
- ・所員の研修やカウンセラーの人材確保のため、令和8年度より公認心理師の大学院実習を受け入れる準備を進めることができた。

令和7年度 歴史民俗博物館事業報告

1. 企画展等開催

○秋期企画展「野洲川下流域の暮らしの変貌 発掘調査にみる古代・中世」入館者数 1,526人

会 期 令和7年10月4日(土)～11月24日(月.祝) 開館日数 45日

概 要 野洲市が実施した50年の発掘調査成果から、古代から中世の官衙・街道・寺社を中心に野洲川下流域の村々の変貌と集落形成の様相を紹介。出品資料 381点。記念講演会・展示解説

(1)「野洲川下流域の発掘のはじまり一服部遺跡から西河原遺跡まで」

開催日 令和7年11月1日(土) 参加者 25人

講 師 大橋 信弥氏(元滋賀県立安土城考古博物館学芸課長)

(2)「湖南地域の発掘調査50年」

開催日 令和7年11月9日(日) 参加者 33人

講 師 雨森智美氏(栗東市スポーツ・文化振興課)・畑本政美氏(守山市立埋蔵文化財センター)・渡邊貴洋(当館学芸員)

(3) 博物館収蔵庫公開

開催日 令和7年10月18日(土) 参加者 12人

(4) 遺跡見学会(日吉神社・桜生城跡・福林寺跡・桜生遺跡公園等)

開催日 令和7年11月3日(月.祝) 参加者 20人

(5) 展示解説

開催日 令和7年11月3日(月.祝) 参加者 13人

講 師 渡邊 貴洋(当館学芸員)

(6) その他 野洲図書館にて関連展示「暮らしと銭」出品資料 18点

○郷土史展「三上山の妙見さん」令和7年度入館者数 886人

会 期 令和7年2月22日(土)～5月11日(日) 令和7年度開館日数 35日

概 要 文化4年(1807)に三上藩主遠藤氏が三上山に勧請した妙見宮が、令和6年に閉眼したことから、妙見堂寄贈資料を中心に妙見さんの歴史を紹介。出品資料 21点。

○テーマ展「竹工芸作家 杉田静山の世界—美へのまなざし」入館者数 2,600人

会 期 令和7年7月18日(金)～9月28日(日) 開館日数 63日 出品資料 15点。

○郷土史展「古文書から読み解く三上藩の歴史」令和7年度入館者数 398人

会 期 令和8年3月14日(土)～5月11日(日) 令和7年度開館日数 15日 出品資料

17点。

○トピック展示・ロビー展

- 「円山古墳・甲山古墳の副葬品」 10月4日(土)～3月8日(日)
「北村季吟」 12月2日(火)～12月27日(土)
「北村和夫氏撮影・収集写真」 1月6日(火)～3月8日(日)
「よみがえる昭和53年大相撲野洲場所と蔵間」 1月10日(土)～4月5日(日)

2. 講座・講演会等

○銅鐸研究会(共催：博物館友の会)

- 第91回「銅鐸埋納の場所について考える一大岩山、銅鐸の谷一」
日 時 令和7年8月30日(土)14時～16時 参加者62人
講 師 禰宜田佳男氏(大阪府弥生文化博物館館長)
- 第92回「銅鐸の起源について」
日 時 令和8年2月28日(土)14時～16時 参加者58人
講 師 井上洋一氏(奈良国立博物館館長)

○歴史講座「野洲市の建造物」(共催事業・主催：博物館友の会)

- 第1回「近江の水場と暮らし」
日 時 令和7年12月20日(土)14時-16時 参加者26人
講 師 石川慎治氏(滋賀県立大学教授)
- 第2回「野洲の寺社建築」
日 時 令和8年1月17日(土)14時-16時 参加者35人
講 師 山岸常人氏(京都大学名誉教授)
- 第3回「石川教授と五条・野田を歩く」(現地見学)
日 時 令和8年1月24日(土)13時-15時30分 参加者27人
講 師 石川慎治氏(滋賀県立大学教授)

○市史・郷土史講演会「宗泉寺の薬師如来像と近江の薬師信仰」

- 日 時 令和8年3月7日(土) 参加者48人
講 師 古川史隆氏(滋賀県文化財保護課主幹)

3. 市史編さん事業

- 市史・郷土史学習会「鷺見家文書から読み解く三上藩前史」
日 時 令和8年3月21日(土) 参加者60人
講 師 齊藤慶一(当館学芸員)
- 野洲市史編さんだより第54号(通巻92号) 令和8年3月31日発行
内 容「古文書から読み解く三上藩の歴史」など

4. その他

○職場体験・博物館実習

- 野洲北中学校・野洲中学校各3人(3日間)、博物館実習1人(5日間)

文化財保護課 令和7年度事業報告について

(1) 埋蔵文化財発掘調査事業

- ・令和7年度発掘届件数 188 件(令和6年度：165 件)

取扱内訳／本発掘調査 8 件、試掘調査 39 件、工事立会 17 件、慎重工事 124 件の届出

① 市内遺跡等調査事業

- ・個人住宅建設等に係る発掘調査及び試掘・確認調査。

令和7年度は本発掘調査 3 件、試掘調査 37 件、工事立会 17 件を実施した。

調査成果は、令和6年度の調査報告 24 件と令和7年9月末までの調査報告 14 件を『令和7年度 野州市内遺跡発掘調査年報』に収録した。

令和7年度の主な調査結果

1-1_堤遺跡（堤字里ノ内）調査面積 6.6 m²。下層確認時に 13 世紀代を中心とする土師器、黒色土器が出土。

1-2_安治放光寺遺跡（安治字里ノ内）調査面積 13.5 m²。溝跡、土坑を確認した。遺物は下層より古墳時代の土師器の高杯が出土。

1-3_街道遺跡（大篠原字出口）調査面積 63.2 m²。礎板石、中世の埋め立てに伴う護岸状遺構等を検出。遺物包含層や、中世に埋め立てた層からは黒色土器椀や土師器皿が多数出土。石鍋、大和産の羽釜等が出土していることから、多方面との交流があったとみられる。13 世紀から 14 世紀を主体とする街道沿いの集落跡。

② 受託発掘調査事業

- ・民間開発に伴う発掘調査で、令和7年度は5件の現地調査と1件の整理調査（令和6年度現地調査分）を実施した。

調査成果は令和4年度調査分1件と令和6年度調査の4件、令和7年度調査の2件を『令和7年度 野州市埋蔵文化財調査概要報告書』に収録した。

令和7年度の主な調査結果

2-1_西河原遺跡（野州市西河原字里ノ内：集合住宅建設）調査面積約 37.5 m²。3 面の遺構面を確認し、古代～中世にかけてのピットを検出した。

2-2_小篠原遺跡（小篠原字和田：集合住宅建設）調査面積約 260 m²。にぶい黄褐色粘質土層で 3 棟の掘立柱建物跡、竪穴建物状遺構、溝跡を検出した。

2-3_中畑・古里遺跡、安城寺遺跡、斎ノ神遺跡、妙光寺塚越古墳（妙光寺字下六反田：店舗建設）調査面積約 9,400m。12 月から調査に着手した。調査面積が広域なため、野州市教育委員会の他、公益財団法人滋賀県文化財保護協会、公益財団法人元興寺文化財研究所の3機関による発掘調査である。現地発掘調査は令和8年8月まで継続して実施する予定。

③ 公共事業発掘調査事業

3-1_市内重要遺跡調査整理として、昭和57年（1982）に現地調査を実施した鏡山古窯址群の関連遺跡である夕日ヶ丘北遺跡出土の須恵器（参考他）を再整理した。あわせて、令和5年度に龍谷大学付属平安高等学校より寄贈を受けた鏡山古窯址群分布調査資料のうち瓦片を整理した。

(参考) 野洲町教育委員会 1983『昭和 57 年度三堂・野々宮遺跡他発掘調査概要報告書』

3-2_「夕日ヶ丘北遺跡(昭和 57 年度調査)報告補遺(1)」「鏡山古窯址群関連資料寄贈報告補遺」等を『令和 7 年度 野洲市文化財調査概要報告書』に収録した。

※「鏡山古窯跡群」の調査、研究は、『野洲市文化財保存活用地域計画』(2025 年策定)においても野洲市が取組むべき課題のひとつに挙げている。令和 7 年度事業(5)③3-6 等も同。

(2) 永原御殿跡保存整備事業

① 発掘調査(史跡の内容確認調査)

1-1_発掘調査結果 本丸「玄関」跡を約 200 m²の調査区を設けて調査継続中。調査の結果、建物礎石や石列を確認。なお「玄関」跡だけでなく周辺の「廊下」跡と思われる遺構もあわせて確認することができた。

1-2_現地説明会 令和 8 年 3 月 14 日(土) 13 時 30 分から「国指定史跡 永原御殿跡 本丸『玄関』周辺の発掘調査現地説明会」を開催。140 名参加。

② 活用事業(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)

・令和 7 年 9 月 7 日(日)・14 日(日)・15 日(月.祝) 9 時 30 分～11 時 45 分

一般参加者を募り、「永原御殿跡の発掘調査体験教室」を開催。

本丸「玄関」跡発掘調査区において、参加者は瓦等の遺物を発見することができた。

3 日間の参加者は 36 名(+妓王まちづくり推進協議会役員+教育長+市文化財保護課職員)。

③ 整備工事(歴史活き活き!史跡等総合活用整備事業)

・整備基本計画書及び整備基本設計の内容に基づき、令和 5 年度から本丸西側土塁修復工事を開始した。令和 6 年度に引き続き、事前に本丸土塁の南西側の木竹の伐採を行い、現在ジオセル工法にて本丸西側土塁欠損箇所の修復工事を実施している。

④ その他

・本丸内の除草・集積処分を公益社団法人野洲市シルバー人材センターに業務委託し、史跡指定地の維持管理を図った。

(3) 指定文化財修理事業等

① 指定文化財管理事業等

国・県・市指定文化財の保存・管理を図るため、下記のとおり事業費の一部を補助した。

1-1_名勝兵主神社庭園維持管理事業

名勝庭園の維持管理事業として、主庭園清掃 10 回、同除草清掃 6 回、東側境内地草刈清掃 5 回、北側境内地草刈清掃 4 回、クロマツ剪定 2 回の作業に対する事業費の一部を補助した。

1-2_国指定文化財管理事業(防災設備等保守点検)

国指定建造物 7 件(御上神社、生和神社、大笹原神社、圓光寺、稲荷神社、日吉神社、大行事神社)の警報・消火・避雷設備点検業務に対し事業費の一部を補助した。

1-3_県指定文化財管理事業(防災設備等保守点検等)

県指定建造物 3 件(兵主神社、錦織寺、御上神社)の警報・消火・避雷設備点検業務に対し

事業費の一部を補助した。

1-4_市指定文化財修理事業

錦織寺「紙本金地著色名所図」修理事業に対し事業費の一部を補助した。本事業は完了。

1-5_国選定保存技術・本藍染伝承事業

森義男氏が保持する本藍染保存技術について、伝統の藍染技術を保存し文化財修理等に必要
な技術向上と後継者（森芳範氏）育成を図る伝承事業について、事業費の一部を補助した。

1-6_国指定名勝 兵主神社庭園保存修理事業（危険木伐採等）

名勝庭園の保存修理事業として、危険木伐採等の作業に係る事業費の一部を補助した。

② 文化財防ぎょ訓練等

2-1_文化財防火デーに合わせて令和8年1月25日（土）8時から、辻町・西徳寺において寺の
関係者・辻町自治会・野洲市消防団の参加・協力のもと文化財防ぎょ訓練を実施する予定で
あった。しかし、当日6時、訓練実施時間が荒天予報であったため訓練の中止を判断した。

2-2_指定文化財（建造物）査察は、令和8年1月9日（金）、同22日（木）、同26日（月）、同
29日（木）に所管消防署とともに実施した。

（4）史跡公園管理運営事業

① 桜生史跡公園管理業務

史跡大岩山古墳群のうち天王山古墳・円山古墳・甲山古墳を含む桜生史跡公園の維持管理業
務。年302日開園日のうち142日の公園管理業務を公益社団法人野洲市シルバー人材センタ
ーに業務委託（160日は文化財保護課対応）。

② 桜生史跡公園除草等業務委託等

史跡指定地を主とする桜生史跡公園内の除草等業務を公益社団法人野洲市シルバー人材セ
ンターに業務委託（2,000㎡機械刈り、処分2tダンプ4台）。

この他、桜生史跡公園案内所機械警備はALSOK株式会社に業務委託。

③ 史跡大岩山古墳群等除草業務委託

史跡大岩山古墳群の大塚山古墳と富波古墳の計3,200㎡の除草処分（年2回）を公益社団法
人野洲市シルバー人材センターに業務委託。

史跡大岩山古墳群の亀塚古墳と市史跡の木部天神前古墳は、文化財保護課員が除草作業を随
時実施した。

④ 史跡永原御殿跡除草・伐採業務委託

史跡永原御殿跡本丸内（10,000㎡）の除草、竹伐採・処分を公益社団法人野洲市シルバー人
材センターに業務委託。

⑤ 史跡大岩山古墳群の円山古墳・甲山古墳石室・石棺特別公開

令和7年11月16日（日／関西文化の日）に石室内部公開と出土遺物の展示解説を実施
し、県外も含み212名の参加を得た。

(参考) 令和3年度：117名、令和4年度：60名、令和5年度：159名、令和6年度：220名

⑥ 桜生史跡公園入園者数

令和元年度～令和7年度 桜生史跡公園入園者月別一覧

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01	780	657	502	1327	1172	768	630	632	550	343	347	518	8,226人
R02	475	0	337	323	359	372	561	708	458	295	381	695	4,269人
R03	555	555	452	439	244	0	794	906	631	372	399	688	6,035人
R04	519	564	459	350	342	426	947	859	234	204	261	485	5,650人
R05	427	414	340	301	255	309	454	660	254	182	292	478	4,366人
R06	452	417	338	259	217	299	327	720	293	281	208	338	4,149人
R07	366	404	262	225	141	119	373	491	183	282	352	573	3,771人

※令和2年：4月21日～5月31日までの35日間、新型コロナウイルス感染予防のため休園

※令和3年：8月28日～9月30日までの28日間、新型コロナウイルス感染予防のため休園

○_令和8年1月10日(土)～3月31日(火)「びわこなんリアル謎解きラリー」のスポットに登録協力/湖南地域観光振興協議会(守山市商工観光課)

(5) その他

【文化財啓発・普及活動】

① 令和7年度 中学生チャレンジウィーク事業(職場体験学習)〔市内中学校所管事業〕

・令和7年5月28日(水)～6月3日(火) 平日5日間 野洲北中学校生徒3名

② 生涯学習出前講座〔市教育委員会生涯学習課所管事業〕

・令和8年2月16日現在、自治会や団体等からの要望なし(博物館が複数回対応)

→下記、④4-1～4-3の小学校出張授業を実施

③ 文化財関係報告書の公開〔奈良文化財研究所ホームページ〕

・令和7年11月から、野洲市教育委員会文化財保護課(合併前旧町分含む)が編集・発行した文化財関係報告書等を、奈良文化財研究所ホームページ「全国文化財総覧」に順次登録とPDF版を公開(<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>)。

※『野洲市文化財保存活用地域計画』における「文化財調査関連資料のデジタル管理」「ホームページ及びSNSなどの運営支援」の一環として着手。

→調査資料の検索や概要把握が容易となり、一部はChatGPT等のAIが認識して照会も可。

●令和8年2月16日(月)現在「全国文化財総覧」

滋賀県登録数 4,457件 PDF有(712) PDF無(3,745) 所収遺跡(2,838)

野洲市 265件 PDF有(102) PDF無(163)

※1_野洲市の「PDF有」は、桜生史跡公園カラーパンフレット1を含む

※2_野洲市の「PDF無」は『野洲市歴史民俗博物館研究紀要』(目次のみ登録・公開)や奈良文化財研究所が先行して登録した旧町時代の現地説明会資料等が含まれる。

※3_市町村合併時に作成した報告書の一部は、未登録のものがある。

【参考】野洲市教育委員会発行の埋蔵文化財発掘調査報告書 235 冊（古文書目録等は含まない）
（旧中主町：65 冊、旧野洲町：69 冊、野洲市：101 冊 ※野洲市分には旧町時の調査報告を含む）
※野洲市教育委員会 2026『野洲市文化財保存活用地域計画』資料編より

④その他_職員・講師派遣、展示、報告、原稿執筆等

- 4-1_令和7年5月8日（木）篠原小学校／校外学習（高木神社）
対象：全児童（約 160 名）＋先生 講師：鈴木主任
- 4-2_令和7年9月24日（水）篠原小学校／出前授業（永原御殿）
対象：6年生（25名）＋先生 講師：鈴木主任
- 4-3_令和7年9月30日（火）祇王小学校／出前授業（永原御殿）
対象：4年生（34名×2クラス）＋先生 講師：鈴木主任
- 4-4_令和7年12月刊行『日本城郭協会 研究紀要』第2号（公益財団法人日本城郭協会）
／原稿執筆（永原御殿跡の調査成果速報） 執筆者：福永課長
- 4-5_令和8年2月6日（金）滋賀県レイカディア大学城郭探訪会／講演
場所：レイカディア大学草津キャンパス
演題：「戦国期山城の見どころと楽しみ方」 講師：福永課長
- 4-6_令和8年2月21日（土）つがやま市民教養文化講座／講演
場所：ライズヴィル都賀山
演題：「野洲市の歴史文化の特色」（櫻本市長「未来へつなぐ野洲市のまちづくり」の中で）
講師：福永課長
- 4-7_令和8年2月22日（日）愛知県陶磁美術館／講演等
場所：愛知県陶磁美術館（愛知県瀬戸市）
発表内容：令和7年度特別展「This is SUEKI」関連事業「若手研究者による全国須恵器
窯シンポジウムー研究の現状を共有し、未来を探るー」のうち「(2)各地の須
恵器窯研究の現状と課題 ⑧滋賀県内の須恵器生産と鏡山古窯群について」
- 4-8_桜生史跡公園、永原御殿跡、山城、古墳、窯跡 等、希望に応じて随時案内・解説

⑤その他_考古資料借用・利用等 ※文化財保護課所管のみ、博物館は別

- 5-1_甲山古墳・円山古墳出土空玉／調査研究（写真掲載許可）／宮内庁職員
『令和6年度高梨学術奨励金年報』 ※令和6年度に熟覧済
→5-1-2（写真掲載許可）『たたら研究会福山大会要旨集』
- 5-2_市三宅東遺跡出土有孔磨製石鏃（熟覧・実測・写真撮影）
／公益財団法人滋賀県文化財保護協会職員 ※古墳時代前期の石製威儀具の可能性
→5-2-2（論文掲載）「市三宅東遺跡の鏃形石製品とその意義」『紀要』第39号、公益財団法人滋賀県文化財保護協会、令和8年3月31日刊行予定
- 5-3_下々塚遺跡出土土製鋳型外枠（熟覧・実測・写真撮影）／同志社大学大学院生
- 5-4_吉地大寺遺跡・吉地薬師堂遺跡出土瓦（熟覧）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会職員
- 5-5_富波古墳・亀塚古墳・五之里遺跡出土埴輪（熟覧・実測・写真撮影・指導）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会職員

5-6_夕日ヶ丘北遺跡出土須恵器（論文掲載）／大阪府立近つ飛鳥博物館職員

『大阪府立近つ飛鳥博物館 館報』、令和8年3月31日刊行予定

5-7_その他1 令和8年2月13日（金）

光相寺遺跡出土刻書（陰刻）土器（引き取り、指導、調査依頼）／奈良文化財研究所職員
昭和58年（1983）に光相寺遺跡（吉地）から出土した刻書（陰刻）須恵器が、奈良文化財研究所（奈良市）より約43年を経て引き取り。その後、資料は再積読、最新機器による分析・
図化・写真撮影等を実施するため再び奈良文化財研究所で管理。

5-8_その他2 （予定）

五条遺跡・西河原薄窪遺跡出土韓式系軟質土器（調査・指導）／大阪歴史博物館職員

2. 野洲市文化財保存活用地域計画策定

(1) 認定事務等

1) 文化庁認定 令和7年7月18日（金） 2) 軽微な変更 令和7年7月28日（月）

※計画は野洲市ホームページでPDF版を公開。

紙媒体は、印刷製本後に野洲市教育委員会文化財保護課執務室、野洲市歴史民俗博物館、
野洲図書館（本館、分館）、県内の図書館等に配架予定。

また、本計画の策定委員会委員、市内文化財所有者（管理者）、計画作成協力者、関係機関
等に順次郵送予定。

(2) 野洲市文化財保存活用地域計画策定記念シンポジウム

「まつり」（無形文化財）と地域・人のつながりー三上のずいき祭りを中心にー

日 時：令和7年8月31日（日）13：30-16：30 会場：野洲文化小劇場

参加者：110名（事前予約不要、参加費無料） 支援：株式会社パスコ

内 容：

1) 概要説明「野洲市文化財保存活用地域計画について」

説明：福永清治（野洲市教育委員会文化財保護課 課長）

2) 基調講演「重要無形民俗文化財『三上のずいき祭り』の特質」

講師：中島誠一氏（成安造形大学 講師、滋賀文教短期大学 講師）

3) 動画上映「三上のずいき祭り」

4) 事例報告「『三上のずいき祭り』の地域での取り組み・課題」

報告者：市木繁和氏（ずいき祭保存会 会長）

5) パネルディスカッション「『三上のずいき祭り』における継承と発信の戦略」

コーディネーター：矢田直樹氏（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課 副主幹）

パネラー：市木繁和氏（ずいき祭保存会 会長）

岩根高代氏（野洲市観光物産協会・野洲市ボランティア観光ガイド
協会）

福永清治（野洲市教育委員会文化財保護課 課長）

職員の任免等について

【新規採用者】

所属名	フルタイム パートタイム	補 職 名	氏 名	学校・園名	備考
学校給食センター	フルタイム	栄養士	浦口 亜友美		4月1日 付
図書館	パートタイム	事務補助員	呉本寿子		4月1日 付
図書館	パートタイム	事務補助員	西村将岐		4月1日 付
図書館	パートタイム	事務補助員	荒巻陽一		4月1日 付
図書館	パートタイム	事務補助員	工藤大輝		4月1日 付
こども課	フルタイム	保育教諭・教諭	中畑 美智子	北野幼	4月1日 付
こども課	パートタイム	特別支援加配教諭	金井 ひとみ	祇王幼	4月1日 付
こども課	パートタイム	特別支援加配教諭	福山 千里	野洲幼	4月1日 付
こども課	パートタイム	預かり保育教諭	田近 喜代美	野洲幼	4月1日 付
学務課	パートタイム	スクールサポートスタッフ	北脇 きよみ	祇王小	4月1日 付
学務課	パートタイム	日本語指導支援員 (ポルトガル語)	辻本 省蔵	北野小	4月6日 付
学務課	パートタイム	学校教育支援員	水谷 美加	中主小	4月6日 付
総計	フルタイム	2人	12人		
	パートタイム	10人			

【退職者】

所属名	フルタイム パートタイム	補 職 名	氏 名	学校・園名	備考
こども課	パートタイム	預かり保育教諭	田近 喜代美	野洲幼	3月31日 付
総計	正規	0人	1人		
	フルタイム	0人			
	パートタイム	1人			

職員許可・承認等一覧

区 分	対象職員	許可の期間	
営利企業等従事許可承認 (兼業請求)	会計年度任用職員	令和8年4月1日～令和8年4月9日	
営利企業等従事許可承認 (兼業請求)	会計年度任用職員	令和8年4月1日～令和9年3月31日	
営利企業等従事許可承認 (兼業請求)	会計年度任用職員	令和8年4月1日～令和9年3月31日	
営利企業等従事許可承認 (兼業請求)	会計年度任用職員	令和8年4月1日～令和9年3月31日	
総計	正規	0人	4人
	フルタイム	0人	
	パートタイム	4人	